

---

# バカと天才？たちと召喚獣

SHIN.

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカと天才?たちと召喚獣

### 【NZコード】

N1068Z

### 【作者名】

SHIN.

### 【あらすじ】

科学とオカルトと偶然によって開発された「試験召喚システム」を試験的に採用し、学力低下が嘆かれる昨今に新風を巻き起こした文月学園。

そこに一年の振り分け試験直前に転校してきた7人の天才?とFクラスのバカたちとAクラスの優等生たちが繰り広げる学園物語です。

この作品が処女作ですので駄文+亀更新になるかもしれませんがそれでもよければ読んでください。

## プロローグ（前書き）

はじめまして、SHIZU・と申します。

文才もなく、駄文になるかもしれません、よろしくお願ひします。

## プロローグ

振り分け試験日

明久 side

時刻8時55分

「おはよーございます鉄・・・西村先生！」

鉄人「吉井、遅刻・・・なぜそんなにボロボロなんだ？」

「いやーくる途中にチンピラに絡まれてる女の子を助けてたら遅れちゃつて～」

鉄人「くだらん[冗談はいいから早く服を着替えて試験会場に行け（まつたくこのバカは・・・）」

「はーい！」

僕は校門前で鉄人に挨拶してから、更衣室で体操服に着替えてから試験会場へ向かった。

「おはよー雄二ー」

雄二「ん？遅かつたなバカ久」

明久「来て早々人を罵倒しないでよ！僕はバカじゃないしー雄二も大差ないじゃないか！」

康太「・・・振り分け試験の日に遅刻する奴なんてバカしかいない

島田「仕方ないわよ、吉井はバカなんだし」

「みんな酷い！これにはひじょに深い訳が・・・」

秀吉「まさか振り分け試験のときに遅刻とはのう・・・

「だからちがうつてば！」

雄二「なら何故遅刻したんだ？」

「それには深い事情があつて・・・」

雄二・秀吉・康太・島田「――（・・・）寝坊（だな！）（じや

な！）（ね！）」「」

「待つて！まだ何もいつてないよね！？」

大島先生「次の教科の試験始めるから全員席に着けよー」

振り分け試験終了後

「これならCクラスくらいいけたんじゃないかな？」

雄二「安心しろ明久、お前はFクラスで確定だ」

「なんだと！10問に1問は書けたはずだから口にはいつてるはずさ！」

4人（（（やつぱり吉井はバカだな）））

明久「みんなどうして僕をあわれむような目でみるの？」

明久 side out

優璃 side

優璃家にて

時刻20時30分

「ハア・・・（今日の朝、変な人たちに絡まれていた私を助けてくれた人・・・たしか文月学園の制服着てたよね？ならまた会えるかな？）」

葵「どうかしたの？優璃」

「ううん、なんでもないよ！」

葵「それならいいけど」

「それより葵、振り分け試験受けなくてよかつたの？」

葵「いいのいいの、私は演劇ができればどのクラスだつていいし、

麗奈も心配だしね」

葵は笑顔でそう答えた。

麗奈「・・・『めんなさい』

葵「麗奈が謝る」とはないでしょ」「

「そうだよ」

麗奈「・・・でも」

葵「気にしないの、それに和くんもFクラスだから」「え？和くんはAクラスのボーダー越えてたはずだけど・・・」

麗奈「・・・和くん寝坊したんだって」

「なにやつてるの和くん・・・」

葵「まさか振り分け試験の日に寝坊するとは・・・」

ピンポーン

「誰かな？」

葵「ちょっとといつてくるね

和哉「お邪魔します」

葵「噂をすれば・・・だね」

和哉「??」

「寝坊くん、どうしたの？」

和哉「うつー？どうしてそれを」

「葵から聞いた」

和哉「葵さん！どうしてしつてるんですか、今日試験受けてないでしょー？」

「寝坊くん、どうしてしつてるんですか、今日試験受けてないでしょー？」

葵「学園にいる知り合いに聞いたんだよ、小学生が振り分け試験に遅れてきたって」

和哉「小学生じゃない！」

「試験の前の日に夜更かしして寝坊するくらいだから説得力ないけどね～」

和哉「・・・（シクシク）」

麗奈「・・・ところで優璃は大丈夫なの？」

「私は多分問題ないとおもうけど」

麗奈「・・・優璃とも一緒にクラスがよかつた」

「来年は同じクラスになれると思うよ、麗奈も頑張ってるし」

麗奈「・・・来年はみんなでAクラス」

葵「そういえば、宗くんと薰ちゃんと蓮くんは？」

麗奈「……薰は問題ないって言つてた」

「宗くんと蓮くんは特例で別の日に振り分け試験受けたらしよ」

麗奈「……あの3人はAクラス確定のはず」

葵「そうだね～」

「そういうば次の登校日つていつだっけ？」

葵「たしか始業式の日だよ」

「そうだつたね、はやく学園に行きたいんだけどね（あの人には早く会いたいし）」

葵「そうだね。さてと、それじゃあ麗奈の日本語の勉強でも手伝つよ」

麗奈「……ありがと」

「和くん……いつまで泣いてるの……」

和哉「……僕は小学生じゃない……（シクシク）」

## 第1話&1t；転校生たちと自己紹介&go+；

明久 side

鉄人「遅いぞ！吉井！」

「おはようございます西村先生！」

鉄人「吉井・・・おはようございますじゃないだろ？」「

「え？ えーっと・・・今日も肌が黒いうえに暑苦しいですね？」

鉄人「お前は遅刻の謝罪より、俺を罵倒する事と肌の色の方が大事なのが？・・・まあ良い、受け取れ」

「掲示板とかに張り出したほうが楽しいですか？」

鉄人「まあそれもそうなんだがな、ウチは試験校として有名だからな色々問題があるんだ」

「へえ～、さて何クラスかなっと（きつと口くらいは・・・）」

もらつた封筒の端を破き、中に入つていた紙をみると。

『吉井 明久・・・Fクラス』

二年Fクラスの前。吉井明久は躊躇していた。

「遅刻なんてして、みんなの印象悪くなつてないかな・・・？」「なんて考えすぎだよね！」

軽快に扉を開けて入つた。

「すいません。ちょっと遅れちゃいました」

雄二「早く座れこのウジ虫野郎！」

（・・・へ？）

雄二「聞こえなかつたのか？ああ？」

（それにしてもなんて物言いだろ？ いくら教師でも失礼すぎる。）  
僕はにらみつけるように教壇に立つて いる教師を見た。

「・・・雄二、何やつてんの？」

教壇にいたのは明久の悪友、坂本雄一だつた。

雄二「先生が遅れてるらしいから代わりに教壇に上がつてみた、なんか転校生がこのクラスに来るらしいぞ」

明久「そうなんだ」

F「――なに――!? 転校生だとおおおお――?」

F「男か!? 女か!?」

雄二「男子一人、女子二人らしいぞ」

F「――女子がくるぞ――!!」

F「――うおおおおお――!」

「で、何で雄二が先生の代わりを?」

雄二「一応このクラスの最高成績者だからな」

「え? それじゃ、雄二がこのクラスの代表なの?」

雄二「ああ、そうだ」

(雄二さえ説得すればこのクラスは僕の思いどおりに・・・)

雄二「これでこのクラスの全員が俺の兵隊だな」

(考えることは、同じなんだな)

「それにもさすがはFクラス。ひどい設備だね」

Fクラスの面々はみんな床に座つていて。椅子なんてものはないらしい。

福原先生「えーと、ちょっと通してもらえますかね?」

そこには寝癖のついた髪によれよれのシャツを貪相に着た、いかにもさえない風体のオジサンが居た。

このクラスの担任だ。

福原先生「それと席についてもらえますか? HRを始めますので」  
僕と雄二がそれぞれ返事をして席に着く。

先生は明久たちを待つてから壇上でゆっくりと口を開いた。

福原先生「えー、おはよつ!」ざこます。一年F組担任の福原慎です。よろしくお願ひします。」

福原先生は黒板に名前を書こうとして、やめた。  
チヨークすらまともにないみたいだな。

福原先生「皆さん全員に卓袱台と座布団は支給されますか？不備があれば申し出てください」

F「せんせー、座布団に綿が入つてないです」

福原先生「我慢してください」

F「せんせー、卓袱台の足が折れました」

福原先生「ボンドで直してください」

F「せんせー、窓が割れて隙間風が寒いです」

福原先生「ビニール袋とセロハンをあげますから直してください」

（・・・・・ひどすぎる）

福原先生「では、自己紹介でも始めましょうか。そうですね、転校生からやつてもらいましょう。一ノ瀬君、川崎さん、水無月さん、入つてきてください」

福原先生がそう言つと、転校生の3人（小学生の男の娘と長い黒髪を後ろで束ねている女の子とセミロングの金髪の女の子）がFクラスに入つてきた。

福原先生「まず、一ノ瀬君。軽く自己紹介してください。」

和哉「えつと、一ノ瀬 和哉といいます。趣味は絵を描くことです。

一年間よろしくお願いします」

F「どこからどうみても小がく・・・ひつ！？」

（な・・・なんだこの殺氣は！？）

和哉「僕は小学生じゃないですので間違えない様にお願いします（ゴゴゴゴゴ・・・！）」

一ノ瀬君は黒いオーラを出しながらF生徒にそう言つ放つた。

福原先生「つつ次は、川崎さん。自己紹介を。」

葵「川崎 葵です。部活は演劇部に所属する予定です。一年間よろしくお願いします。」

長い黒髪を後ろで束ねている子がそう言つた。

秀吉「葵殿ではないか！？どうしてここにいるのじや？」

「秀吉の知り合い？」

秀吉「まあ、そんなところじや」

葵「あ、秀吉君もFクラスなんだ？」

秀吉「うむ。しかし葵殿はAクラス確実の成績だったはずじゃが？」

葵「麗奈が心配だったから。振り分け試験受けなかつたんだよ。」

福原先生「えー、雑談は後にしてくれださい。」

葵「あ、すみません」

福原先生「水無月さん、自己紹介を」

麗奈「・・・はい。・・・水無月 麗奈です。・・・・・よろしくお願ひします。」

と、綺麗な金髪の女の子が言った。

F「質問いーですかー？」

麗奈「・・・はい」

F「親が外国人なんですか？」

麗奈「・・・母がイギリス人」

葵「ちなみに最近までイギリスにいたから、少し日本語が苦手だから話すときはゆっくり話してあげてね」

（帰国子女か・・・島田さんと同じで大変なんだろうなあ・・・）

福原先生「次は、廊下側の人から自己紹介をお願いします」

秀吉「木下 秀吉じや。演劇部に所属しておる」

（秀吉、今日もかわいいなあー）

秀吉「よく間違われるが僕は女子ではなく男子じや・・・」

和哉（木下君も苦労してるんだね・・・）

康太「・・・土屋 康太・・・特技は盜む・・・特  
にない」

和哉（・・・聞かなかつたことにしよう）

島田「島田 美波です。海外育ちで日本語は会話は出来るけど読み書きが苦手です。趣味は吉井 明久を殴ることです」

明久「誰だ！ そんなピンポイントで危険な趣味を持つてゐる子は！？」

和哉・葵（（あの子とはあまり関わらないほうが良さそう））

あとは名前をいうだけというのが続き、明久の順番までまわってきた。

「コホン。え~っと、吉井 明久です。気軽に『ダーリン』と読んでくださいね」

田中　一　著　「　」

(凄い威力だ。。。吐き気が止まらない)

失礼、忘れて下せ」とかぐるNしぐお願ひ致します」

臣洛「あの、隠れて、すみません。」

F X 4 1 「え？」

福原先生「ちょうど好かったです。今自己紹介をしているところなので、姫路さんもお願いします」

「おお、貴殿ですか！」

姫路へ  
あはい  
なんですか？」

正 - もう、このままでは困るんでですか?」

して・・・

F「そういえば、俺も熱（の問題）が出たせいでFクラスに」

「ああ、化学だろ？」  
あれは難しかつたな」

「俺は弟が事故に遭ったと聞いて、実力を出し切れなくて」

日 照 黑 拙 人 二 五

「今年一番の大嘘をありがとう」

(業以外もみんなバカばつかじやないか・・・)

姫路「で、でなつ、今年1年よろしくお願ひしま

姫路は逃げるように、僕と雄一の間の空いてる席に着いた。

う。

「姫路さん、体調はもう大丈夫なの？」  
姫路「あ、吉井君。だいぶ良くなりましたよ。」

姫路「あ、吉井君。だいぶ良くなりまし

「そっか、よかつた」

福原先生「はいはい。静かに・・・」

バンバン！・・・・バキッ！

教卓が木つ端微塵になつた。

（さすがに酷すぎるよ）

福原先生「え～。代えを持つてきますので、皆さんは自習をしてくださいね」

「・・・ねえ雄一、ちょっと良い?」

雄二「ん?なんだ?」

和哉（おもしろそうだから、盗み聞きしようかな）

雄一を伴い廊下に出た。

姫路「吉井君、どうしたんでしょうか?」

葵「姫路さん、吉井君が気になるの?」

姫路「え?、えっと」

葵「川崎 葵です。姫路さん、よろしくね。」

麗奈「・・・水無月 麗奈」

姫路「い、いぢぢぢーそよろしくお願ひします」

廊下にて。

「ねえ雄一、試合戦争を仕掛けでみない?」

雄二「この前学校の設備などどうでもこいつてこいつてなかつたか?・・・・姫路のためか?」

「ち、違うよ!?」

雄二「素直じやねえな。まあどうせ、試合戦争はやるつもりだった。世の中学力こそがすべてじゃないって事、その証明がしてみたくて

な」

和哉（新学期初日から仕掛けるのか・・・ま、とりあえずは）クラス代表の手腕をみせてもらいますか)

雄二「先生が戻ってきたみたいだし、戻るぞ」

再び教室にて。

福原先生「えーと、坂本君キミが最後ですよ。クラス代表でしたよね？前に出てきてください」

雄二「了解、Fクラス代表の坂本雄二だ。代表でも坂本でも好きなように呼んでくれ」

雄二「コホン。さて、皆に一つ聞きたい。・・・Aクラスは超豪華待遇らしいが・・・不満はないか？」

F×41「大アリじゃあッ！」

雄二「だろう？俺だってこの現状は大いに不満だ！」

F「いくら学費が安いからってこの設備はあんまりだ！」

F「Aクラスだつて同じ学費だろ！？」

F「改善を要求する！！」

雄二「そこで代表としての提案だがFクラスはAクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思つ！」

雄一「そこで代表としての提案だがFクラスはAクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う！」

F「そんなの勝てるわけがないだろ？」

F「これ以上設備が落ちたらどうなるんだ」

F「姫路さんがいたら何もいらない！」

F「麗奈さんがいるだけで僕は満足です！」

雄一「そんな事はない、必ず勝てる。いや俺が勝たせて見せる」

F「無理に決まってやるじゃん」

F「そう言われても何の根拠もないしなあ・・・」

雄一「根拠ならあるわ。」のクラスには勝つことのできる要素が揃っている

雄一は自信ありげにそう宣言した。

雄一「おい康太、今まで姫路と川崎、水無月のスカートを覗いてるんだ」

3人「えっ！？」

3人は素早くスカートを押さえた。

雄一「土屋 康太 こいつがあの有名な寡黙なる性職者だ」<sup>（ハツリーニー）</sup>

そういうと康太は首を横に振った。

F「馬鹿な・・・奴がそうだというのか？」

F「見ろ！まだ証拠を隠そうとしているぞ・・・」

F「ああ、ムツツリの名に恥じない姿だ」

雄一「それに姫路の事は皆その実力をよく知っているはずだ」

姫路「え？私ですか？」

（姫路さんは学年トップ5に入っているほどの学力だからね～）

雄一「ああ、ウチの主戦力だ期待している」

F「そうだー俺達には姫路さんがいる！」

F「彼女ならAクラスにも引けをとらない！」

雄二「それに木下 秀吉だつている」

秀吉「ワシもか？」

F「演劇部のホープ！」

F「確かにAクラスに木下 優子つていう姉がいただろ」

雄二「そのほかにも島田もいる」

島田「えつウチ？」

雄二「島田は数学だけならAクラスにも匹敵する。当然俺も全力を尽くす」

F「坂本つて小学校の頃『神童』とか呼ばれてたんだり」

F「確かになんかやれそうな気がしてきたぞ」

F「これはいけるんじゃないか！？」

F「よし…やつてやろううじやねーか！…」

教室の士気が高まつていつたが…

雄二「それに吉井 明久だつている」

シーン…

F「誰だよその吉井 明久つて」

「雄二。何でそこで僕の名前をだすのさ…？せつかく上がった士気が台無じじゃないか！」

雄二「そうか、知らないのなら教えてやる。」この肩書きは『観察処分者』だ！！

F「確かに観察処分者つて『馬鹿の代名詞』じゃなかつたつけ？」

「ちつ違うよ…！ちょっとお茶目な16歳の愛称で…」

雄二「そうだ『馬鹿の代名詞』だ」

「肯定するなバカ雄二…！」

姫路「あのそれってどういうものなんですか？」

雄二「観察処分者つていうのは具体的には教師の雑用係だな。力仕事とかの雑用を特例として物に触れるようになつた召喚獣でこなすんだ」

姫路「それって凄いですね！試験召喚獣つて見た目と違つて力持ち

らしいです

姫路さんが僕に期待の眼差しを向けている。

「あはは。そんな大したものじゃないよ。確かに僕なんかの点数でも召喚獣の力はかなり強いけど、その時受ける召喚獣の負担の何割かは僕にフィードバックされるんだ。皆と同じで教師の監視下でしか呼び出せないし、僕にメリットもないしね」

「おしおし……しゃあ召喚かやられた。本人も苦しいって事だろ？」

「事じやん」  
「たよな・・・それならおいそれどん喰てあたないヤツがいなーて

雄一「気にするな！明久はいてもいなくとも大して変わらん雑魚だ」  
「……雄一そ」は僕をフオコリするところだよな。

葵「坂本君、さすがに酷すぎない?」

川嶋文人

「葵さん・・・ありがとうございます」

雄一「まずは俺達の力の証明としてまずDクラスを制圧しようと思つ。皆この境遇で大いに不満だろ?」

雄一なら金貢筆を執れ！！！出陣の準備だ！」

姫路さんも恥ずかしげに手をあげていた。

「ねえ雄二今字が間違つてなかつた? それに下位勢力の使者つ

「いいでしょ、お前がやるんだから。」

奴一 大丈夫だ 駆されたと思って行つて来し」  
和哉「一緒に行つたのか?」

麗奈「...私モ」

「えつ？一ノ瀬君に水無月さん、いいの？」

和哉「和哉でいいですよ」

麗奈「・・・麗奈でいい」

「ならこっちも明久でいいよ。それじゃあ行こうか、和哉君に麗奈

ちゃん」

和哉・麗奈「（・・・）はい」

こうして3人でDクラスに向かった。

## オリキャラ紹介（1）（前書き）

タイトルの通りオリキャラ紹介です。

## オリキャラ紹介（1）

名前：神谷 優璃  
読み：かみや ゆり

性別：女

誕生日：7月10日

身長：153cm（B）

所属クラス：2-A（代表）

得意教科：英語

苦手教科：数学

趣味：読書・ゲーム

特技：料理

外見：髪色・髪型は霧島にそっくりだが、体格は霧島よりややスレンダーで、顔は綺麗というよりは可愛い系。

性格：恥ずかしがり屋だが、意外と頑固者。人を見下す奴が大嫌い。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
- ・明久と同じマンションに（川崎 葵）（水無月 麗奈）と共に住んでいて隣同士。
- ・実は大財閥のご令嬢。

召喚獣の武器：サーべル（二刀流）

召喚獣の服装：西洋風の鎧

腕輪の能力：現時点では不明。

\*

名前：川崎 葵

読み：かわさき あおい

性別：女

誕生日：4月17日

身長：156cm(C)

所属クラス：2-F

得意教科：古典・現国・英語

苦手教科：数学・物理・化学

趣味：演技の練習、演劇鑑賞

特技：演技、声帯模写

外見：黒髪長髪を後ろでくくっている。美人ではあるが、男の子より演劇命なので、モテてはいるものの、すべて断っている。

性格：温厚な性格だが、友達や演劇をバカにされると人が変わったかのように怒りを表す。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
- ・明久と同じマンションに（神谷 優璃）（水無月 麗奈）と共に住んでいて隣同士。
- ・秀吉とは少しだけ面識がある。
- ・振り分け試験は（水無月 麗奈）があまりにも心配だったため、わざと受験しなかった（実は総合科目で霧島 翔子2倍以上の点数差をつけるほどの学力をもっている）。

召喚獣の武器：輪刀

召喚獣の服装：巫女服

腕輪の能力：現時点では不明。

\*

名前：水無月 麗奈  
読み：みなづき れな

麗奈

性別：女

誕生日：2月21日

身長：155cm（B）

所属クラス：2-F

得意教科：英語・数学・化学・物理

苦手教科：それ以外（半分近くは一桁）

趣味：料理・お菓子作り

特技：料理・お菓子作り・裁縫

外見：髪は肩にかかるくらいの金髪で、顔は目鼻立ちもよく、前いた学校ではファンクラブができるほどの美女。

性格：重度の人見知りで、Fクラスでは基本的に、葵・和哉・明久・秀吉以外とは基本は話さない。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。

・生まれてから人生のほとんどを外国で過ごしているため、日本語がほぼわからない。（普段の会話程度ならなんとかなる。）

・明久と同じマンションに（神谷 優璃）（川崎 葵）と共に住んでいて隣同士。

・振り分け試験は問題がほとんど読めないため、Fクラス入り。

召喚獣の武器：弓矢

召喚獣の服装：法服

腕輪の能力：現時点では不明。

\*

名前：一ノ瀬 和哉

読み：いちのせ かずや

性別：男

誕生日：3月26日

身長：141cm

体重：30kg

所属クラス：2-F

得意教科：物理・化学・数学

苦手教科：日本史・世界史・古典

趣味：読書・絵を描くこと

特技：絵を描くこと

外見：髪色・髪型は明久によく似ている。顔は小学生の男子から告白されるほど。その体格のおかげで、制服を着てても小学生にみられるほど。

性格：見かけによらずしつかり者でちょっと腹黒い一面も。

・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。

・文月学園の3-Aクラスに異母兄弟の姉と兄がいるが、とある出来事以来、離縁状態。

・振り分け試験は遅刻し得意教科の理系3教科を受験できず、Fクラス入り。

召喚獣の武器：両手にトンファー

召喚獣の服装：黒の改造学ラン

腕輪の能力：爆破（自分の点数を消費してトンファーを爆弾にかえる。その爆弾の威力は点数消費に比例する）

### 第3話&17・作戦会議&part.1(前書き)

最近急に寒くなってきたらちょっと風邪気味です・・・

「ただいま雄一、ロクラスに宣戦布告してきたよ」

雄一「おい、明久ちょっとといいか?」

「ん? どうしたの雄一?」

雄一「いや、ぶっちゃけお前が酷い目に遭うと思つていたんだが…」

「ああ、うん。和哉君が嘔泣きでもしてロクラスの人たちの気をそらしてくれなければ絶対酷い目に遭つたね。」

雄一「まあいい(無事だつたか)、今からマーティングを行う! 明久、宣戦布告してきたんだな」

「一応、今日の午後に開戦予定と告げてきたけど」

葵「じゃあ、先にお昼ご飯だね」

雄一「せつするか。明久、今日ぐらはまともな物食べよう?」

「やつ思うならパンでもおいじりよ」

麗奈「…明久君のお昼ご飯食べない人?」

「いや…一応食べるよ」

秀吉「…あれば食べると言えるのかの?」

康太「…明久の主食は水と塩」

「失礼な!! 僕をバカにするのも程がある! きちんと砂糖も食べてるよ!」

和哉「それは食べてるとは言わなによ」

葵「正確には舐めるが正解だね~」

(何だるい? 皆が同情の眼差しを向けてくる)

雄一「まつ飯代を遊びに使い込むお前が悪いな

「しつ仕送りが少ないんだよ!」

姫路「あの、…吉井君、もしよかつたら私がお弁当作つてきましょつか?」

「え? いの姫路さん! ?」

姫路「はつはい明日のお皿でよければですが・・・」

「うん！塩と砂糖以外のものなんて久しぶりだよ！」

島田「・・・ふうん。瑞希って優しいんだね。吉井だけに作つてく  
るなんて」

姫路「えつあツいえ！／＼／＼その皿さんにも・・・」

和哉「僕たちにも？いいの？」

姫路「はい。嫌じゃなければ」

秀吉「おお、明日の皿は豪華にならうじゃのう」

康太「・・・楽しみ」

雄二「じゃあ明日の皿は姫路に任せるとして。さて話を戻すぞ。試  
召戦争についてだ」

島田「ねえ坂本。1つ気になつたんだけど、どうしてAでもEでも  
なくDクラスなの？」

雄二「色々理由はあるんだがEクラスは相手じゃないからだ」

和哉「姫路さんがいるから、正面からやりあつてもEクラスには勝  
てるだろうからかな？」

雄二「その通りだ」

島田「それならDクラスとは正面からぶつかると厳しいの？」

雄二「ああ。確実に勝てるとは言えないな」

「なら初めから目標のAクラスを狙おうよ」

雄二「初陣だからな。派手にやつて今後の景気づけにしたいだろ？」

「それに、打倒Aクラスの作戦における必要なプロセスだしな」

「でも、Dクラスに勝てなかつたら意味がないよ」

雄二「負ける訳ないさ、お前らが俺に協力してくれるなら勝てる・・

・・・いいか、お前ら。ウチのクラスは・・・最強だ！」

島田「良いわね。面白そうじゃない！」

秀吉「Aクラスの連中を引きずり落としてやるかのー！」

康太「・・・（グツ）」

姫路「がつ頑張ります！」

麗奈「・・・頑張る（優璃たちとは戦いたくないんだけど・・・）」

葵「あ、私、振り分け試験受けなかつたから〇点なんだけど」「和哉「僕も受けてない教科があるんだけど」

雄二「問題ない、開戦と同時に姫路と川崎と一ノ瀬には回復試験に向かつてもらうからな。それじゃあ作戦を話すぞ」

そして、僕達は勝利のため雄二の作戦に耳を傾けた。

### 第3話&17・作戦会議&18・（後書き）

次回はAクラスの転校生の話。

その次にFクラス対Dクラスの予定です。

## 第4話&1t ; Aクラスの転校生たち&gt ; (前書き)

今回はAクラスslideの話です。

Fクラスで自己紹介が行われていること。

優璃 side

職員室にて。

高橋先生「君たちが転校生の3人ですね？」

宗一郎・薫・私「「はい」」

高橋先生「あとの1人はどこにいますか？」

薫「神楽坂君は親に呼び出されて今、帰省中らしいです」

高橋先生「わかりました。ひとまず、Aクラスに向かいましょうか。

「

Aクラス前。

高橋先生「それではここで呼ぶまで待つていてください。」

宗一郎・薫・私「「「わかりました」」

Aクラスにて。

高橋先生「皆さん、席について下さい。」

生徒たちが全員席に着いたところで、

高橋先生「皆さん、進級おめでとうございます、2・Aクラスの担任の高橋 洋子です。今年一年間よろしくお願ひします」

高橋先生「皆さん全員にリクライニングシート、個人エアコン、冷蔵庫、パソコンは支給されていますか?不備があれば申し出でください」

・・・シーン・・・・・

高橋先生「特にないですね、では、自己紹介でも始めましょうか。そうですね、転校生からやつてもらいましょう。神谷さん、桐

谷くん、武内さん入つてきてください。」

3人「「「はい」」」

高橋先生「それではまず、武内さん、自己紹介をお願いします」

薰「武内 薫です 一年間よろしくお願ひします」

A「うちの学園つて女子のレベル高いよな」

A「だよなー」

高橋先生「次は桐谷君、学年次席として自己紹介をお願いします」  
宗一郎「桐谷 宗一郎だ。一応、学年次席だ。一年間よろしく・・・

あと、薰に手を出したら口口（「ホン！」）なんでもあります」

A「男子全員（武内さんには手をだしてはいけない！）

高橋先生「次は神谷さんですね。では、2・Aクラス代表として、自己紹介をお願いします」

A×45「え？」

「えつと、（つう、緊張する・・・）クラス代表になりました神谷  
優璃です。・・・至らぬ所もあるかもしだれませんが、一年間よろ  
しくお願ひします」

A「てつきり霧島さんが代表だと思つてたよ」

A「つてことは神谷さんと桐谷くんは霧島さんより成績いいんだね  
・・」

高橋先生「私語は謹んでください」

A×2「すみません」

高橋先生「それでは、自己紹介の続きを廊下側の人から自己紹介を  
お願ひします」

自己紹介終了後。

「はあ～緊張した～・・・」

薰「優璃は本当に恥ずかしがり屋だね～」

宗一郎「だな」

翔子「・・・神谷、高橋先生が呼んでる」

「あ、はい、わかりました。あと優璃でいいですよ」

翔子「・・ならそう呼ばせてもらひつ」

「とりあえず職員室に行つて来ますね」

宗一郎「いつてら~」

職員室にて。

「なにか用ですか?」

高橋先生「ええ、午後の授業はFクラス対Dクラスの試召戦争があるので自習になりますので、この日本史の課題プリントをAクラスの生徒に渡しておいてください」

「わかりました」

Aクラスにて。

薰「まさか新学期初日から試召戦争仕掛けてくるとは思わなかつたなあ

愛子「だよね~」

「えつと、工藤さんでしたよね?」

愛子「うん、そだよ~、よろしくね優璃ひりちゃん、薰ちゃん、桐谷君」「う、うん(薰みたいな人ですね・・・)」

宗一郎「よろしく~」

薰「よろしく~で、そつちの2人は木下さんと久保君だけ?」

優子「ええ、そうよ。とこりで、代表は高橋先生と何を話してたの?」

?

薰「なんでもFクラスとDクラスが試召戦争をするから午後は自習でそのプリントを渡しておいてだつてさ」

利光「どういうことだい?振り分け試験直後なんだから、クラスの差は点数の差になるんじやないのかい。Fクラスに勝ち田なんてないだろうに」

「優子、久保君の言つ通りだし、初日から仕掛けるなんていい迷惑だ

薰「おもしろそうだしいいんじゃない？私はパソコンで試合戦争の様子でも観てようかな」

愛子「ボクもやつしよつかな~」

優子「『え～』じゃないわよ優子、武内さんも」

薰「名前呼び捨てで構わないよ」

宗一郎「喰る前に話題を紹介したらどうだ?」  
薰「ふう宗ちゃん冷たいなあ」

「で、宗くんはさうちが勝つとおもひの？」

羽二郎「Fクラスが勝つだろうな」

翔子・・・・・利也・ケラフが勝ったと思ふ  
愛子・優子・利光「え? なんで?」

宗くんと翔子の発言に3人は疑問に思つたらしい。

利光「姫路さんだね」

宗一郎「そうだ、これほどの成績の持ち主ならAクラス確実のはず

だらうへ。」

優子 たしかにそうね

美穂「あ、あの~」

利光「ん? どうかしたのかい? 佐藤さん」  
集惠「今の話はどうですが、七つが田舎で

高熱で倒れたらしいですよ

「たしか途中退室は〇点だから、多分その人はFクラスにいるね」

愛子「姫路さんのがいるならDクラスには勝てるかもね」

宗一郎 まあ それだけじゃないんだよな

薰「とりあえず、観戦しようつよ」

優子「そうね」

愛子「そだね」

利光「そうだね」

「薰は課題終わらしてからね」

薰「そんな殺生な～・・・って、いつの間にか既、課題終わらして  
るし・・・」

宗一郎「薰～さつさと終わらせよう～」

薰「保健体育な～すぐ終わるの」

優璃 side out

## オリキャラ紹介（2）・試召戦争のルール（前書き）

今回はAクラスのオリキャラ（転校生）の紹介です。

ところで前書きって何を書けばいいんでしょ？

## オリキャラ紹介(2)・試召戦争のルール

名前：桐谷 宗一郎

読み：きりや そういちろう

性別：男

誕生日：5月3日

身長：184cm

体重：66kg

所属クラス：2-A

得意教科：現代社会

苦手教科：保健体育

趣味：モデルガン収集・ゲーム

特技：射撃・ハッキング

外見：黒髪の短髪で顔は地味だがなかなかのイケメン。

常に改造工アガンを携帯している。

性格：ひねくれ者だが、親友たち（優璃、葵、麗奈、和哉、蓮、特に薰）には心を許している。

親友を傷つける奴にはどんな手段を使ってでも制裁を加える。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・（武内 薫）と2人で同棲している。
- ・明久と同じマンションで部屋は隣同士。
- ・FFF団全員を10分ほどで片付けるほど強い。

召喚獣の武器：スナイパーライフル

召喚獣の服装：迷彩服

腕輪の能力：現時点では不明

\*

名前：武内 薫  
読み：たけうち かおる  
性別：女

誕生日：9月23日

身長：159cm (D)

所属クラス：2-A

得意教科：保健体育・物理・現代社会

苦手教科：古典・数学・化学

趣味：スポーツ観戦

特技：運動系なら何でも

外見：髪はこげ茶色で髪型はショートボブで美人。

性格：自由奔放で友達思い。

性格的に割と愛子と気が合う。

・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。

・（桐谷 宗一郎）と2人で同棲している。（親公認）

・親が建設業の社長をしており、かなりのお金持ち。

召喚獣の武器：ショットガン+手榴弾

召喚獣の服装：迷彩服

腕輪の能力：現時点では不明

\*

文月学園におけるクラス対抗戦の奪取・奪還および召喚戦争のルール

1.原則としてクラス対抗戦とする。各科目担当教師（もしくは学園統治者）の立ち会いにより試験召喚システムが起動し、召喚が可

能となる。なお、総合科目勝負は学年主任（もしくは学園統治者）の立会いのもとでのみ可能。

2・召喚獣は各人一体のみ所有。この召喚獣は、該当科目において最も近い時期に受けたテストの点数に比例した力を持つ。総合科目については各科目最新の点数の和がこれにあたる。

3・召喚獣が消耗するとその割合に応じて点数も減算され、戦死に至ると0点となり、その戦争を行っている間は補習室にて補習を受講する義務を負う。

4・召喚獣はどどめを刺されて戦死しない限りは、テストを受け直して点数を補充することで何度も回復可能である。

5・相手が召喚獣を呼び出したにも関わらず召喚を行わなかつた場合は戦闘放棄と見なし、戦死者同様に補習室にて戦争終了まで補習を受ける。

6・召喚可能範囲は、担当教師の周囲半径10メートル程度（個人差あり）。

7・戦闘は召喚獣同士で行うこと。召喚者自身の戦闘参加は反則行為として処罰の対象となる。

8・戦争の勝敗は、クラス代表の敗北をもつてのみ決定される。この勝敗に対し、教師が認めた勝負である限り、経緯や手段は不問とする。

## オリキャラ紹介（2）・試召戦争のルール（後書き）

明日にはDクラス対Fクラスの話を投稿する予定です。

Dクラス戦です。

## 第5話&1t・Dクラス戦・開戦! &gt; ;

明久 side

開戦時間になり、Fクラス対Dクラスの試召戦争の火蓋は切つて落とされた。

渡り廊下にて。

（雄一の作戦、じゃあまず姫路さんたちが回復試験を受けている間、極力戦死しないように、前線を維持すればいいって言つてたけど、押してはいるもののかなり厳しいんだけど）

Fクラスは島田さんの数学を中心にDクラスと均衡していた。

D「くそつ！ なんでFクラスの癖にこんな奴がいるんだよ！！」  
Dクラスの生徒が叫ぶ。無理もない。圧倒出来ると思つていた相手と均衡しているんだから。

その結果、Dクラスは勝利を焦り隊列が乱れ、Fクラスが徐々に押し始めていたが・・・

塚本「皆落ち着け！ 島田には数学以外で闘えればなんとかなる！ 元々地力で優つているのはこっちなんだ！ 一対一にもちこんで確實に仕留めるんだ！」

D中堅部隊「おおーーーーー！」

Dクラスの中堅部隊長・塚本の指示で徐々に隊列が整い始め、Dクラスに押し返され始めた。

「くつ・・・まずい（このままじゃ突破されてしまう・・・）」

島田「あつ！ 数学のフィールドが！？」

島田さんが数学のフィールドからでてしまった。

D×5「今だ！ Fクラス島田に英語勝負で申しこむー！」

「島田さん！（まずい！ 島田さんが戦死したらとてもじやないけど

前線を維持できない）」

和哉「Fクラス一ノ瀬 和哉が加勢します！サモン！」  
「Fクラス吉井 明久も加勢します！サモン！」

・英語

D 1 (121点) • D 2 (104点) • D 3 (118点)

D 4 (138点) • D 5 (123点)

VS

一ノ瀬 和哉 (423点) • 吉井 明久 (47点)  
島田 美波 (53点)

「和哉くん！」

和哉「なんとか間に合いましたね」

D 5 「何！？400点越えだと！？」

D 4 「構うな！数で押し切るぞ！」

島田「吉井、足で纏いよ！」

「島田さんも、同じく足で纏いじゃないか！」

島田「うるさいわね！！（プスッ）

「目がああああ！！（助けに来たのに目突きはひどくない！）」

和哉「なにやつてるんですか・・・」

D 3 「先にあのバカ2人を片付けるぞ！」

和哉「させません！」爆破”！」

そういうて、和哉の召喚獣の武器のトンファーを敵に向かって投げつけると・・・ドカーン！！

・英語

D 1 (0点) • D 2 (0点) • D 3 (0点)

D 4 (0点) • D 5 (0点)

VS

一ノ瀬 和哉 (123点) • 吉井 明久 (47点)

島田 美波（53点）

トンファーが敵の近くで爆発しDクラスの5人の召喚獣は戦死した。

鉄人「戦死者は補修ーーー！」

D×5「鬼の補修はいやだーーー！」

鉄人「安心しろ。“趣味は勉強、尊敬する人は「富金次郎」と言つ、立派な模範生に仕立て上げてやる！」

D×5「助けてくれーーー！」

島田「ところで、一ノ瀬その点数は一体・・・？」

和哉「ん？英語は得意なんですよ、それに回復試験は英語しか受けませんので」

「これで相手の中堅部隊はあと1人だね」

塚本「くそつーーーそこ」のFクラス3人に古典勝負を申し込むー・サモン！」

・古典

塚本（138点）

VS

一ノ瀬 和哉（7点）・吉井 明久（9点）

島田 美波（6点）

「あれ・・・？」

島田「古典は無理ーーー！」

和哉「あはは？どうしましょ？」

塚本「・・・いくらなんでも酷すぎないか？・・・まあいい、覚悟

！」

「2人とも撤退するよ！」

島田「敵前逃亡は戦死扱いになるんじゃないの？」

「問題ないよ、須川バリアー！」

・古典

塚本（138点） VS 須川 亮（76点）

須川「味方を盾扱いするんじゃねえ！？」

「須川君にここは任せて教室に戻る！」

秀吉「須川よ、助太刀するのじゃ！」

・古典

塚本（138点）

VS

須川 亮（76点）・木下 秀吉（119点）

塚本「くつ？ また加勢か！」

須川「おらつ！」

塚本「そんな攻撃あたら」

須川の召喚獣が塚本の召喚獣に攻撃を仕掛けるが、あっさりかわされ、

秀吉「隙ありじゃ！」

塚本の召喚獣が回避して体勢を立て直す前に秀吉の召喚獣が塚本の召喚獣の首をねた。

Dクラス中堅部隊長・塚本、戦死。

源一「塚本！ どうしてうちの中堅部隊が全滅してるんだ！？」

Dクラス代表・平賀 源一が本隊を引き連れてやってきた。

「あの人Dクラスの代表だね。（そろそろ……）中堅部隊員撤退！！（4人しかのこつてないけど）」

須川「了解！！」

秀吉「了解じゃ！」

島田「わかつたわ！」

和哉「わかりました！」

源一「逃がすか！！本隊の半分は奴らを追うんだ！ 所詮はFクラス

だ、一対一なら勝てる！」

雄一「待たせたな、明久！」

雄一率いるFクラス本隊が引き連れてやつてきた。

雄一「本隊全員突撃だ！！Dクラスの奴らを殲滅するぞ！」

F本隊全員「おおーーーーー！」

## 第5話&1t・Dクラス戦・開戦!&gt;・(後書き)

お読みいただきありがとうございます。

今日、PVが3000を突破しました。

少しでもこの駄文を覗いてくれた方々に感謝します。

第6話&1t・Dクラス戦・終戦!&gt;・(前書き)

Dクラス戦です。

雄一「待たせたな、明久！」

雄率いるFクラス本隊が引き連れてやってきた。

日本隊全員「殺伐」！！！

源一「くつ？ 鳴か！ 教室前ま

雄一「明久、あとは任せたぞ」

「了解！」

雄一 近衛部隊は俺ヒ

麗奈「……皆Dクラスを追いかけていったんだ！」

明久 side out

雄  
—  
s i d e

Fクラス前にて。

D6 「来たぞ！坂本だ！！」

## D7 「護衛もいなーいぞー！」

「伏兵だと！？」

D×3「Fクラス代表に物理勝負を申」

麗奈「…………Fクラス水無月が受けます…………サモン！」

・物理

D 6 (136点) · D 7 (124点) · D 8 (118点)

VS

水無月 麗奈 (268点) · 坂本 雄一 (92点)

D 8 「いつの間に!?」

D 6 「まだ、高得点者がいるのか!? 聞いてないぞ!?」

麗奈 「・・・ここは通さない」

「ほう? Aクラス並じゃないか」

麗奈 「・・・問題文が読めなくて解ける問題が多かつたから  
「なるほどな。(水無月も教科によつては戦力になりそうだな) だが  
が、護衛は不要だ」

麗奈 「・・・どういつ」と?」

明久 side

その頃、Dクラス前にて。

秀吉「Dクラス代表に古典勝負を申し」

D 9 「近衛部隊が受けます!」

島田「Dクラス代表に」

清水「お姉様」

島田「ひつ! ?み、美春! ?」

清水「お姉様に古典勝負を申し込みます! サモン!」

島田「ええ! ?鬼の補修はいやー! !」

須川「島田! 助太刀するぜ!」

清水「豚野郎は邪魔しないでください! !」

島田「吉井! アンタも助けなさい! !」

「そんな、ヒーロー気取り、現実では通用しない! (僕だつて命は

惜しい！）皆、ここで決めるよー！一気に攻め切るんだーーー！」

島田「あとで、殺してやるー！」

く。  
僕の指示でFクラスがDクラスの生徒に多対1で勝負を仕掛けてい

（！D代表の護衛が甘い！）田ヶ元又吉井 明久が玉野「のクラス玉野 美紀が受けます！」

「？ まだ護衛が二七のか…？」

源一「残念だったね、まあ、吉井君だけなら護衛をだす必要もなか

つ  
た  
ね

しかし、お倒せないがモレ、だから娘跟さんよ

姫路「あ、あの~」

あ、始點のトコロで、お嬢様の教室は向こうにあります。

姫路「えっと・・・Fクラスの姫路 瑞希です。よ、よろしくお願

いしお

「アーヴィングの『アーヴィングの死』」(原題: Irving's Death) は、アーヴィングの死後、彼の死因をめぐる議論を題材にした小説である。

源一「せ、せ。べつも」

姫路へえ、えと、サモンです

源一ああサモン・・・」

• 現代国語

姫路瑞希 (351点) vs 平賀源一 (149点)

源一「え？ あ、あれ？」  
姫路「ご、ごめんなさいっ！」

謝罪の言葉と共に、姫路の召喚獣は大きな剣を振るい平賀の召喚獣

を斬り伏せる。

鉄人「戦争終結！！勝者・・Fクラス！！」

この瞬間戦争は終了し、Fクラスの勝利で幕を下ろした。

あー寒い・・・

後書きって何書けばいいんだろう?

第7話&17・Fクラス対Dクラス戦後&gt;（前書き）

Dクラス戦の戦後対談です。

## 第7話&17：Fクラス対Dクラス戦後&go to：

『戦争終結！－勝者・Fクラス－！』

Aクラス side

宗一郎「予想通りだな」

翔子「・・・雄一はそう簡単には負けない」

薰「ん？ 雄一って誰のこと？」

宗一郎「たしかFクラス代表だ」

翔子「・・私の許嫁・・じやなくて幼馴染／／／

そう言つて翔子は頬を赤く染めた。

優子「もしかして霧島さん・・・」

愛子「うん、多分そうなんじゃないなのかな？」

利光「意外だね」

3人は心底意外だと顔にでていた。

宗一郎「ま、人の好みをとやかく言つ氣はないがな」

薰「頑張つて翔子ちゃん！－応援するよ！－」

翔子「・・・最近あまり話せてないけど・・・頑張る！」

翔子はそう言つて、右手を握りこんだ。

宗一郎「しつかし今回の試合戦争の意図がよくわからん

優子「どうゆうこと？」

宗一郎「いや、設備向上を狙うのなら最初は勝てる確率の高いEクラスを狙うのが普通だろ」

優璃「そうだね、負けちゃつたらあの設備より酷くなるんだからね」

薰「ちやぶ台と座布団より酷い設備つて・・・」

愛子「想像したくないね・・・」

優璃「そう考えるとDクラスに仕掛けるのは明らかに不自然だよね」

宗一郎「これは俺の予想だが、Fクラス代表はDクラスとFクラス有利の同盟を結んでCクラスかBクラス、もしくはウチを狙ってるのかもしない」

利光「だが、そんな同盟誰が好きこのんで結ぶんだい？」

薰「設備交換の免除と引き換えとかなら不利な同盟でも飲むんじやない？」

利光「たしかにDクラスにとつてはメリットしかないし、僕がD代表だつたら間違いなくその同盟を結ぶね」

優子「なるほどね、もしDクラスがA・B・Cクラスに仕掛けて負けてもEクラスの設備ですむものね」

宗一郎「まああくまで予想だがな」

優璃「友達もいるからあんまり無理しないで欲しいんだけどね」

優璃は心配そうにそう言った。

利光「そういえば、Fクラスにも3人転校生が来たつて聞いたね」  
優璃「うん、その子たちだよ、本当ならみんなAクラスの学力があるのに・・・」

優子「Fクラスなら弟がいるはずだから話でもきいてみようかしら」  
優璃「私も葵たちに優子さんの弟のこと聞いてみようかな？」

薰「さてと、宗くんそろそろ帰ろ」

宗一郎「ちょっと用事があるから10分ほど待つてくれ」

薰「はーい」

愛子「しつかし2人ともえらく仲が良いねー（ニヤニヤ）」

優璃「2人で同棲してるからね」

愛子「え？ 同棲！？」

薰「そうだよ～宗くんは私の許嫁だから～／＼／＼」

翔子「・・・羨ましい・・・私も雄一と・・・／＼／＼」

Dクラスにて。

葵「勝つたみたいだね」

「そうだね」

F「卓袱台に腐った畳とはおそれいばじや――――――――――」

F「坂本雄一さままだな！」

F生徒たちが騒いでいるのを尻目に坂本がDクラスの代表と交渉らしいことを始めた。

「代表、何の話をしているんですか？」

雄二「一ノ瀬か。いや、この後の話をな」

「設備交換のことですか？」

雄二「・・・いや、設備は交換しない」

源一「どうこうことだい？」

雄二「そっちがある条件を飲んでくれれば、和平交渉で済んだことにしてもいい」

源一「話を聞かせてくれ」

雄二「タイミングを見計らって、アレを壊して欲しい」

坂本が言うアレとは、Bクラスの外に付いている室外機。

「いくら次のBクラス戦のためとはいえ、それはどうなんですか？（世の中力だけじゃないといつても・・・）」

源一「わかった。まあ注意や罰則はあるかもしけないが、この教室を守れるならやろう。だが本当に設備を交換しなくていいのか？」

雄二「なんだ？あのボロい卓袱台と腐った畳が欲しいのか？」

源一「と、とんでもない！」

雄二「俺たちの目標はあくまでAクラスのシステムデスクだ。Dク

ラスの設備で満足されちゃ困るんでな」

源一「モチベーション維持のためってことか」

雄二「じゃあ俺たちはもつ用はないんでな。野郎ども引き上げるぞ

！」

源一「ああ。Aクラスに勝てるように祈つてゐるよ」

雄一「本当は勝てる訳ないつて思つてんだろ」

源一「はは・・・ばれてたか。まあ、頑張つてくれ。期待はしつくよ」

雄一「俺たちは勝つぞ、今年のFクラスは最強だからな！」

和哉 side out

## 第7話&17・Fクラス対Dクラス戦後&gt;（後書き）

次回は明日か明後日には投稿する予定です。

## 第8話&17・Fクラス対Dクラス戦後の放課後&gt;・(前書き)

総合PV5000、ユニーク1000を突破！

これからも『バカと天才?と召喚獣』をよろしくお願いします。

それと、今回からバカテストをやってみようと思います。

問題1

以下の意味を持つことわざを答えなさい。

- (1)得意なことでも失敗してしまうこと
- (2)悪いことがあつたうえに、更に悪いことが起きる例え

姫路瑞希・川崎葵の答え

- (1)弘法も筆の誤り
- (2)泣きつ面に蜂

教師のコメント

正解です。他にも（1）なら“河童の川流れ”や“猿も木から落ちる”、（2）なら“踏んだり蹴ったり”などがありますね。

一ノ瀬和哉の答え

- (2)踏んだり蹴ったり殴ったり叩きつけたり

教師のコメント

あなたは鬼ですか。

吉井明久の答え

- (2)泣きつ面に蜂

教師のコメント

君の名前をみただけで×をつけた先生を許してください。

土屋康太の答え

(1) 弘法も木から落ちる

教師のコメント

シユールな光景ですね。

源一side

Fクラスが去つてすぐのDクラスにて。

宗一郎「2・Aの桐谷だ、代表はいるか?」

D「代表」桐谷って人が呼んでるよ~」

「わかつた、いまいく(桐谷?たしか転校生だよな?)」

宗一郎「アンタが2・D代表か?」

「ああ、D代表の平賀 源一だ」

宗一郎「2・Aの桐谷だ、少し聞きたいことがある」

「なんだい?」

宗一郎「何を交換条件に和平に持ち込んだんだ?」

「・・どこでそれを? (さつき決まったことなのになぜしつてている  
んだ!?)」

宗一郎「さあな?で、さつきの質問の答えを聞かせてくれ

「・・悪いが、口止めされているんだ(されとはいが話さない  
ほづがいいだろ)」

宗一郎「そうか、ならもう一つお前を倒した奴・・・姫路 瑞希で  
間違いないな?」

「なぜFクラスに姫路さんがいることをしつてるんだ！？」

宗一郎「Aクラス確実の成績なんだからAクラスにいなければ必然的になんらかの理由でテストを受けられなかつたと考えてるのが妥当だろ」

源一「そうゆうひことか」

宗一郎「ああ、今のFクラスはマークしとくにこしたことはないからな」

「AクラスがFクラスをマークする必要があるのか？」

宗一郎「さあな？時間とらして悪いな。礼はまた今度でいいか？」

「礼なんて別に・・・」

薰「宗くん、帰ろつ！」

俺が礼を断ろうとしたとき、後ろから元気そうな女の子が桐谷に飛びついて来た。

宗一郎「わかつた！わかつたから引っ張るなーそれじゃあな、平賀」「あ、ああ・・・」

源一 side out

和哉 side

Fクラスにて。

「（Dクラスとの交渉内容、話したら2人とも怒るだろうなあ）葵さん、麗奈さん、ちょっといいですか？」

葵「どしたの？」

麗奈「・・・どうかした？」

坂本とD代表との交渉内容を2人に説明した。

葵「いくら次のBクラス戦のためとはいえ、Dクラスの人たちにそんなこと押し付けたんだ・・・」

麗奈……・・・代表と語していくる」

「代表はもう帰つたよ」

麗奈「……畠中、話してある」

葵  
・・・私は次の試合戦争に参加しないからね、そんなことまで

「編」

卷之二十一

麗奈「。。。和哉くん、帰る？」

「そだね、帰ろうか」

- 1 -

「あれ？秀吉くん？女子の制服きてなにしてるの？」

優子、何言つてんのよアン……キミ！アタシは木下優子よ！」

卷之三

優子「そうよ。ところで、あなた達は？」

麗奈一  
・・・水無用  
麗奈、2  
- E

「一、國の三つの、一つは、公用の一つ品、公

「……はあ（そんなに年下にみえるのかな……（シクシク））」

優子：ええと……（触れちゃいけないものは触れたみたいね）「

「アーリーの本懸賞は二部作なんや（シカシカ）」

優子「たしかに見た目は小がk」

一・二・三・四・五

和哉へんが持ねた

（エバ 僕は小学生みたいですよ……）

麗奈「・・・いつものこと、和哉くん、帰ろ・・・木下さん、さよ  
うなら」

優子「え、ええ、さよなら」

和哉 side out

「意見、『感想があればよろしくお願ひします。』

第9話&17・必殺料理人・転校生たちの考え方&87・(前書き)

茜さん、ミヤサカさん、感想ありがとうございます。

## 第9話&1t：必殺料理人・転校生たちの考え方&gt;

### 問題2

問：調理の為に火にかける鍋を制作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。このときの問題とマグネシウムの代わりに用いるべき合金の例を一つあげなさい

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉の答え

問題点：マグネシウムは炎にかけると、激しく酸素と反応するため危険だから

合金の例：ジュラルミン

### 教師のコメント

正解です。合金なので鉄ではダメと言つひつかけ問題なのですが、引っかかりませんでしたね。

### 水無月麗奈の答え

問題点：A question can't be read.

合金の例：Same as the above.

### 教師のコメント

水無月さんは帰国子女でしたね。早く日本語をマスターできるようにがんばってください。

### 土屋康太の答え

問題点：ガス代を払つてなかつた事

合金の例：

教師のコメント

そこは問題じゃありません

吉井明久の答え

問題点：

合金の例：未来合金（ すぐく強い）

教師のコメント

すぐく強いと言われても・・・

Dクラス戦の次の日。

Fクラスにて。

「昨日消耗した奴は今日の午前中に回復試験を受けてくれー！次はBクラスを制圧するぞー！」

F×4 1 「おおーーーー！」

明久「わてと、一時間目はすうがkグハツ！？」

島田「吉井ー昨日はよくも見捨ててくれたわねー！骨の2・30本は覚悟しなさい！」

明久「腕にとんでもない激痛がーーーーー！」

昼休み。

葵「代表、ちょっとといいかな？」

雄一「ん? なんだ?」

葵「私と麗奈と和くんはBクラス戦には参戦しないからね」

雄一「は? ちょっと待て! どういづいとだ! ?」

麗奈「・・・代表は間違ってる」

和哉「それに世の中学力がすべてじゃないって事を証明したいといつてたのに、結局は姫路さん頼みだからね」

雄一「・・・なぜそれを知っている?」

和哉「明久との立ち話を盗み聞きしてましたから」

雄一「そうか・・・どうしても参戦する気がないか?」

雄一「少し困り気味にそう言った。」

葵「ないです」

和哉「まあ、負けたところで設備ダウン以外特に困ることもないです」

雄一「そうか・・・なら賭けをしないか?」

麗奈「・・・?」

葵「賭け・・・ですか。内容は?」

雄一「Bクラス戦をお前ら抜きで勝つたら、その次のAクラス戦に参戦してもらひ」

和哉「負けた場合は?」

葵「霧島さんと結婚で、どうかな?」

雄一「は? 待て! なぜ翔子のことをしつてるんだ! ?」

雄一「は驚きながら葵に問い合わせ返した。」

葵「ん? Aクラスの子に聞いただけだよ」

和哉「霧島さんって誰?」

葵「Aクラスの子だよ、代表の幼馴なJ(ゴホン!) 許嫁だつてさ」

雄一「ちがうわ! ・・・まあいいだろ? その条件でいいのか?」

和哉「まあ、勝てないだろ? からいいですよ」

雄一「後悔すんぞ?」

和哉「代表がね」

ガララッ!

明久「うう、酷い目にあつた・・・」

葵「あれ？吉井君？昼ご飯食べに行つたんじゃないの？」

和哉「あと秀吉と康太はなんで震えてるの？」

島田「さあ？購買でもいこうかな」

麗奈「・・・昼ご飯食べてなかつたの？」

島田「ウチが行く前に吉井達が全部食べけりつたのよ、それじゃ購買いつてくるわ」

そういうつて島田は購買に向かつてつた。

康太「・・・地獄をみた（ガタガタ）」

秀吉「まさか、姫路の料理があそこまで酷いとはのう・・・（ガタガタ）」

雄二「・・・意外だな、姫路にそんな苦手教科があるとは」

午後。

雄二「次のBクラス戦なんとかなるか・・・？」

島田「え？次の相手はBクラスなの？」

雄二「ああ、そうだ」

島田「どうしてBクラスなの？目標はAクラスなんでしょう？」

雄二「正直に言おつ。どんな作戦でも、うちの戦力じやAクラスには勝てない」

秀吉「それじゃあワシらの最終目標はBクラスに変更なのかの？」

雄二「いや、Aクラスをやる」

明久「意味がわからないよ？」

雄二「クラスだと差がありすぎるから、一騎討ちに持ち込む。それにBクラス戦が必要だということだ」

和哉「BクラスにAクラスを攻めさせる素振りを見せさせて、Aクラスに脅しをかけ一騎討ちに持ち込むことですか？まあ、僕は参戦しないから関係ないですが」

明久「え？どうしてさ！？」

明久が和哉を問い合わせるように聞いた。

和哉「代表のやり方が気に食わないからかな」

雄二「まあ、そうゆうことだ。だが、お前ら抜きでBクラス戦に勝つたらAクラス戦にはでてもらうからな！」

和哉「約束は守りますよ」

雄二「で、明久。さつさと宣戦布告していい」

明久「絶対にいやだ」

葵「戦争でないんだし私がいってくるよ」

雄二「なら川崎に任せせるか」

葵「はい、いってきますね」

## 第9話&10話 必殺料理人・転校生たちの考え方&感想（後書き）

次回から、Bクラス戦の予定です。

ご意見、ご感想があればよろしくお願いします。

第10話&11話：Bクラス戦・開戦！&敗北；（前編）

Bクラス戦です。

## 第10話&11話・Bクラス戦・開戦!-&go!;

### 問題3

以下の英文を訳しなさい。

This is the bike that my sons had used regularly.

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・武内薰の  
答え

A・これは私の息子たちが愛用していた自転車です。

教師のコメント

正解です。きちんと勉強していますね。

水無月麗奈の答え

A・これはわたしのむすこたちがよくつかっていたじてんしゃです。

教師のコメント

正解ですが、漢字はまだ難しいみたいですね。

土屋康太の答え

A・これは自転車です。

教師のコメント

訳せたのはThisとbikeだけですか

## 吉井明久の答え

A · @ & a m p; · - - -

### 教師のコメント

出来れば地球上の言語でお願いします。

### Aクラス side

優璃「今日の午後からFクラスがBクラスに仕掛けるんだってさ」

愛子「え？ 昨日Dクラスを倒した所なのに？」

宗一郎「回復試験は午前中に全部済ませたみたいだな」

優子「でも、Dクラスに仕掛けさせてからFクラスがしかけるんじやなかつたの？」

薰「だよね～Fの代表さんは何考へてるんだろうね？」

宗一郎「ここで負けたら単なる底抜けのバカだとわかるんだがな」

利光「Bクラスにも勝つと言つのかい？」

宗一郎「今回ばかりはわからん」

宗一郎は頭を搔きながらそう言つた。

優璃「そういうえば明日には蓮くん学校に来るそうだよ」

優子「蓮くん？ 神楽坂くんのこと？」

愛子「そういうえば神楽坂君ってどんな子なの？」

薰「天然さんだね」

優璃「早く来ないかな、色々とききたい」ともあるし

翔子「・・・優璃はその人の事が好き？」

優璃「へ？ 違うよ、なんで振り分け試験で手を抜いたのかをききたいんだよね」

利光「どうゆうことだい？」

宗一郎「本来なら蓮のほうが優璃より点数いいからな、ちなみにあいつ振り分け試験は3教科しか受けてなかつたはずだぞ」

優子・愛子「はい？」

利光「そ、そんなんでよくAクラスにはいれたね？」

宗一郎の蓮の話に、優子・愛子・利光は睡然とした。

宗一郎「あいつは天才様だからな。さて、自習だし俺は寝るかな」

薰「膝枕でもしようか？」

宗一郎「結構だ」

薰「宗くん冷たいなあ～」

Aクラス side out

和哉 side

開戦時間になり、Fクラス対Bクラスの試召戦争の火蓋は切つて落とされた。

雄一「よし、行つてこい！目指すはシステムデスクだ！」

F「「「「「サー！イエッサー！！」「」「」

「この人たちでBクラス前線部隊を抑えれるの？」

葵「問題ないんじやないかな？隊長の姫路さんは数学で腕輪持ちだつたし」

ガラツ！

B「Bクラスからの使者だ。Fクラスにクラス間交渉に来た」

雄一「・・・内容はなんだ？」

B「四時までに決着がつかなかつたら戦況をそのままにして続ければ明日午前九時に持ち越し。その間は試召戦争に関わる一切の行為を

禁止する、だ」

雄二「いいだろ？、協定を結ぶ」

B「そうか、じゃあ調印をするから新校舎の空き教室に来てくれ」

雄一「わかった、近衛部隊ついて来い！」

雄二は新校舎の空き教室に向かっていった。

葵「絶対罷だよね」

「多分ね」

麗奈「・・・知らせなくともいいの？」

和哉「代表にも策があるんだと思つよ」

ガラツ！

B1「え？何故人がいるんだ！？」

B2「話と違うじゃないか！」

突然、Bクラスの二人が教室に入ってきた。

葵「え？・・・Bクラスのお二方、何が用でもありましたでしょうか？」

B2「仕方ない！向こうはFクラスなんだ！サッサと片付けて、やることますぞ！」

B1「了解！！斎藤先生！あのFクラスの3人に現代社会勝負を申し込みます！サモン！」

B2「サモン！」

葵・和哉・麗奈「「「サモン！」」」

・ 現代社会

B1（196点）・B2（184点）

VS

川崎葵（796点）・一ノ瀬和哉（18点）

水無月麗奈（2点）

麗奈「・・・歴史系は問題文が漢字ばかりだから無理」

葵「麗奈は仕方ないとして、和くん・・・」

「「めんなさい・・・」

B1「ちょ？なんだよその点数！？」

B2「勝ち目ないじゃないか！」

葵「で、ここになにしにきたの？」

B2「言ひ訳ないだろ！？」

葵「そう、ならさようなら（一一〇）」

スパン！スパン！

Bクラス2人の召喚獣は一瞬にして葵の召還獣に一閃され、戦死した。

鉄人「戦死者は補修ーー！」

B1「鬼の補修はいやだーー！」

B2「助けてくれーー！」

葵「ねえ、あの人たちなにしにきたんだうね？」

「宗くんや優璃さんに聞いてみる？」

麗奈「・・・宗くんならなにかわかるかも」

ガラツ！

雄二「今戻つたぞ、とこりでさつきBクラスの一人を抱えている鉄人とすれ違つたが・・・お前らか？」

そこにちょうど代表が戻つてきた。

葵「補修はいやだからね」

雄二「そうか」

ガラツ！

明久「ただいまー」

秀吉「ただいまなのじや」

姫路「只今戻りました」

島田「戻つたわよ。ねえ坂本、アンタBクラスと協定結んだの？」

雄二「ああ、四時以降は試召戦争を禁止して翌日の9時から再開するというものだ」

明久「どうしてそんな協定結ぶのさー？こっちのモチベーションが下がりかねないよー！」

雄二「・・・たまには的を得たことを言つんだな、明久」  
代表は明久の発言に心底驚いたようだ。

明久「たまには余計だよ！！」

雄二「まあ待て、理由は姫路の体力が持たないからだ」

明久「姫路さんの？」

雄二「今の主戦力は姫路なんだ、姫路がまともに戦えなければ下校時間まで続けても不利になるだけだ」

島田「なるほどね、そういうことなら」

康太「・・・雄二」

いつのまにか近くにいた康太が雄二を呼んだ。

雄二「どうした？ ムツツリーーー」

康太「・・・Cクラスの様子が怪しい」

雄二「なんだと！ ・・・漁夫の利狙いか」

秀吉「流石にBのあとひと連戦なんてことになると勝ち目がないぞい」

島田「どうするのよ！？」

雄二「そうだな・・・Cクラスと不可侵条約を結ぶか」

「それは協定違反じゃないかな？ たしか協定内容には『試合戦争に関わる一切の行為を禁止する。』って言つてたし」

葵「最悪の場合、Cクラスに潜んでいて、不可侵条約を結んだ瞬間に仕掛けてくる可能性だつてある。それに、C代表つて柔道部の小山さんでしょ？」

康太「・・・（口ク）」

葵「この前、B代表と2人でお話してたよ？」

康太「・・・俺の知らない情報・・・だと！？」

島田「で、でも、流石にそこまで考えてないんじゃない？」

雄二「・・・いや、B代表はあの根本だからな、充分考えられる」

麗奈「・・・根本？」

秀吉「カンニングの常習犯で窃盗など当たり前、喧嘩にはナイフを携帯しているという”卑怯者”の根本かの？」

和哉「そのCクラス代表の小山さんってかなり趣味悪いね」

康太「・・・顔はいいのにもつたいない」

雄二「だが、このままつて訳にもいかねえ・・・いや、いい策を思ついた」

明久「ほんと！？」

雄二「ああ、作戦は明日話すから今日は解散だ！」

Cクラスにて。

根本「くそ！何故奴らがこないんだ！」

小山「恭一、クラスの皆を帰らしていいかしら？」

根本「あ、ああ」

小山「皆、もう帰つてくれて構わないわ！」

根本「仕方ない、この前盗んでおいた”コイツ”で姫路を齎すか」

その手には姫路が書いたラブレターをもつていた。

## 第10話&11話：Bクラス戦・開戦！&gt;（後書き）

次回、転校生がもう1人来ます。

ご意見、ご感想がありましたらよろしくお願いします。

フラグってたてるの難しいですね・・・

## 第1-1話&1t：遅れてきた転校生とFクラスの作戦&gt;；

### 問題4

以下の値を答えなさい。

- (1)  $\sin 30^\circ$ 。
- (2)  $\cos 180^\circ$ 。

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎の答え

- (1) 1 / 2
- (2) -1

教師のコメント

正解です。簡単でしたね。

土屋康太（武内薰）の答え

- (1) たぶん3 (1 / 2)
- (2) きっと -1 / 2 (-1)

教師のコメント

ごまかしたい気持ちもわかりますが、これでは回答に近くても点数はあげられません。

あと、武内さんは正解ですが真面目にやつてください。

吉井明久の答え

- (1)
- (2)

教師のコメント

せめて何か書いて下さい。

次の日。

優子 side

朝の通学路にて。

（寝坊したー！急がないと遅刻して・・・（ドンー！））  
向こうから歩いてきた柄の悪そうな3人のうちの一人にぶつかって  
しまった。

「あ、すみません」

男 a 「いつてーな！どこみてやがんだ！」

男 b 「これ骨おれちゃったかもなーどうしてくれんだ！感謝料払え  
やー！」

男 c 「まあ金なんて持つてないだらうから代わりに少し遊ぼうぜ！」

「はい？ふざけないで！」

男 a 「まあ、いいじゃねえか。一緒に樂しいことしようぜ？」

「嫌だつて言つてるでしょ！！！」

男 b 「ちつ、しうがねえ、力づくでいくか。。」

「え？ちょ、ちょっと・・（誰か助けて・・・）」

柄の悪そうな男たちの一人がアタシの腕をつかもうとしたとき、

男 a 「ぐあつ！？」

男 b 「おいー？どうぐほつ！？」

不意に鈍い音が響き、その男は倒れた。更に次の瞬間には、もう一

人、気絶していた。

その横に、文月学園の制服を着た男子がたつていた。

男 C 「な、なんだお前は？！」

蓮 「さあ？誰でしょう？」

男 C 「てめえ、なめやがつ（バキッ！）腕があああ——！？」

蓮 「さてと・・・（バキボキ）」

男 C 「待つてくれ！？助けてくれ！」

蓮 「んー・・・いいですよ、その代わりそこに転がってる2人を連れてつてくださいね」

男 C 「わ、わかった（ガタガタ）」

そう言つてその男は2人を連れて逃げていった。

蓮 「大丈夫？怪我、してない？」

「え、ええ。大丈夫、ありがとう。（か、かつ）いい／／／」

蓮 「君も文月学園の生徒なんだね？」

「え、ええ、そうよ」

蓮 「なら学園まで一緒にいきますか？」

「ゑ？／／／」

蓮 「さつきみたいな連中に絡まれると厄介ですし、今からだと走った所で遅刻確定ですから・・・大丈夫ですか？さつきからずつと顔真つ赤ですけど・・・」

「ふえ！？／／／ただ大丈夫よ！・・・えつと・・・」

蓮 「あ、神楽坂 蓮といいます」

「え！？じゃあ転校生の・・・／／／」

蓮 「ん？知ってるつてことは2-Aクラスですか？」

「ええ、木下 優子よ、よろしくね神楽坂君／／／」

蓮 「蓮でいいですよ、そろそろ学園に行きましょう、木下さん。遅刻とはいえ早く行つたほうがいいでしようから

「え、ええ／／／そうね／／／」

その頃学園では。

Fクラスにて。

雄二「昨日いつていた作戦を実行するーー！」

明久「作戦？でも開戦はまだだよ？」

雄二「明久Bクラスにじやないぞ？」

明久「へ？」

雄二「Cクラスだ」

明久「なるほど。何をするの？」

雄二「秀吉にコイツを来てもらつ」

雄二はそういうて女子の制服を取り出した。

和哉「代表・・・そつゆつ趣味が・・・？」

雄二「ちがうわ！」

秀吉「別に構わんが、ワシが女装してどりすむんじや？」

葵「少しは嫌がろうよ・・・」

雄二「ああ、秀吉にはAクラスの木下優子を装つてもいい。秀吉、これに着替える」

秀吉「うむ。」

そういうつて秀吉は着替え始めた。

康太「・・・・・・（パシヤパシヤパシヤパシヤー！）」

葵「秀吉君・・・そんなことじてるから女子にみられるんじや・・・？」

秀吉「よし、着替え終わつたぞい。ん？・歸どつした？」

気がつくとFクラスのほとんどの男子が鼻血を噴いて倒れ、姫路と島田は膝をついて落ち込んでいる。

和哉「さあね～？」

秀吉「？おかしな連中じやの」

雄二「んじや、Cクラスに行くぞ」

秀吉「うむ」

明久「あ、僕も行く！」

Cクラス前。

雄二「ここからは一人で頼むぞ秀吉」

明久「Aクラスの使者だから、Fクラスの僕らは一緒にに行けないからね」

秀吉「気が進まんのう・・・」

そういうながら、秀吉はCクラスに向かっていった。

明久「雄二、秀吉は大丈夫なの？」

雄二「多分大丈夫だ」

明久「秀吉が教室に入るよ？」

雄二「明久静かにしろ」

秀吉がCクラスに入つていつて・・・

秀吉（優子）「静かにしなさい！この薄汚い豚ども！」

明久「うわあ。これ以上はない挑発だね・・・」

雄二「流石秀吉だな」

小山「な、何よあんた！」

秀吉（優子）「話し掛けなしで！豚臭いわ！」

小山「Aクラスの木下ね？なんの用よ！」

秀吉（優子）「私はね、こんな醜い教室があるのが我慢ならないの！貴方達なんて豚小屋で充分だわ！」

小山「何ですつて！Fクラスがお似合いですつて！？」

秀吉（優子）「手が汚れてしまうから本当は嫌だけど、特別に今は貴女達を相応しい教室に送つてあげようかと思うの。ちょうど試召戦争の準備もしている様だし、覚悟しておきなさい。近いうちに、私達が薄汚いブタの貴女達を始末してあげるから！」

そう言い残し、靴音を立ててCクラスから秀吉がでてきた。

秀吉「これで良かったかのう？」

雄二「上出来だ」

小山「Fクラスなんて相手にしてられないわ！ Aクラス戦の準備を始めるわよ！」

Cクラスの丞先は完全にAクラスに向いたようだ。

明久「作戦もうまくいつたし、僕達も今日の戦争の準備をしよう。あと10分で始まるよ」

雄二「そうだな」

## 第1-1話&1-t・遅れてきた転校生とFクラスの作戦&88t・（後書き）

次回はBクラス戦の続きを投稿する予定です。

ご意見、ご感想等ありましたらよろしくお願いします。

## オリキヤラ紹介（3）（前書き）

オリキヤラ紹介です。

## オリキャラ紹介（3）

名前：神楽坂 蓮

読み：かぐらざか れん

性別：男

誕生日：6月8日

身長：173cm

体重：55kg

所属クラス：2-A

得意教科：数学・物理・化学

苦手教科：英語・古典

趣味：読書・ゲーム・写真を撮ること

特技：料理・スポーツならなんでも

外見：髪色は暗めの茶色で肩の近くまで髪が伸びている。

顔はカツコイイタイプではなく綺麗なタイプ。

性格：人当たりもよく、面倒見がいいが、やや天然で明久並の鈍感。（それ故、かなりモテるのだがモテているという自覚ナシ）

喧嘩は嫌いだが、親友を傷つける奴や人の夢をバカにする奴には武力行使もいとわない。（その時の戦闘力は鉄人並）

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
- ・明久と同じマンションに（一ノ瀬 和哉）と共に住んでいる。
- ・大財閥の跡取り息子で、親からも優秀な跡取りとして期待されているが、本人はまったく継ぐ気はないらしい。
- ・振り分け試験の時は3教科（4087点）しか受けなかつたので、（神谷 優璃）に代表の座を譲つたが本人は楽しければそれでいいとのこと。
- ・過去のある出来事のせいで理不尽なことを極端に嫌う。

召喚獣の武器：右手にサーべル、左手にトンファー

召喚獣の服装：軍服

腕輪の能力：現時点では不明。

## 第1・2話&1t・バカと転校生たちの怒り&gt;> (前書き)

今回はBクラス戦の2回目です。

## 第1-2話&1t・バカと転校生たちの怒り&gt; ;

### 問題5

以下の問いの（ ）に正しい値を入れなさい。

- ・真空中における光速の速度は（ ）m/s

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・武内薰・  
神楽坂蓮の答え

A . 299,792,458

教師のコメント

正解です。特に言ひことはありません。

土屋康太の答え

A . 秒間に地球を7回半回る速さ

教師のコメント

数値で答えて下さい。

吉井明久の答え

教師のコメント

何か書けとはいいましたが、適当できませんか？

そして午前9時よりBクラス戦が開始した。

僕たちは昨日中断されたBクラス前という位置から進軍を始めた。秀吉「ドアと壁をうまく使うんじゃ！ 戰線を拡大させるでないぞ」今回の雄一の作戦では『敵を教室内に閉じ込める』のが僕たち中堅部隊の役割らしい。

なので今は雄一の指示通り今はBクラス前が主戦場となっている。「みんな！ 絶対1人で戦わないで！ 多対1に持ち込んで周りと協力して敵を倒すんだ！」

秀吉「勝負は極力単教科で挑むのじゃ！ 補給も念入りに行うんじゃ！」

（どうしたんだろう姫路さん・・・なにがあつたのかな？）

このBクラス教室前での乱戦の中、姫路さんは戦いもせず、指示を出すわけでもなく、様子がおかしいので、今は秀吉が姫路さんの部隊を率いているが、

島田「左側入口がウチ以外ほとんど戦死して押し切られそうよ！ 援軍をお願い！」

F「右側入口も押し切られそうです！」

そう言われ、左側入口を見てみると、少しづつ押し戻されていて島田さん以外はかなり点数を消費していた。

「姫路さん！ 僕は右側の化学のほうで援護をするから、左側入口の数学のほうの島田さんたちの援護をたのんだよ！」

姫路「あ、あの、その・・・！」

（さつきから姫路さんの様子がおかしい・・・どうかしたのかな？）

須川「吉井！ 僕と横溝の部隊が左側入口の島田の部隊を援護していく

る

「わ、わかったよ。なんとか持ちこたえて！」（でも、姫路さんどうしたんだろう？さつきからずっとこの調子だし……）

ふと姫路さんの視線の先を追ってみると、窓際で右手になにか紙らしきものもつてこりからを見下ろしている根本くんの姿があった。

「……（あれは……ラブレター……もしかして姫路さんの……）」

「秀吉！島田さん！ちよつとここを任せせるよ！」

島田「何言つてゐのよ！そんな余裕こつこつあるわけないじゃない！」

秀吉「びつしたんじや明久！？」

「ちよつとね。姫路さん、調子が悪いんだつたら近衛部隊のところまで下がつていよいよ！」

姫路「……はい」

秀吉「！大体の事情は掴めたのじや、こつちほんとかあるから早く援軍を呼んできてほしいのじや！」

秀吉もどうやら氣づいたみたいだ。

島田「どうしたのよ！？吉井に木下！瑞希まで下がつちやつたら10分も持たないわよ！？」

秀吉「島田よ、今は戦線を維持することに集中するのじやー。」

島田「わかってるわよ！」

「すぐ戻るから！なんとかそれまで持ちこたえてー。」

そう言つて、僕はFクラスへ走つた。

Fクラスにて。

「雄一！」

「雄二！」

「話があるんだ」

「なんだ？」

「脱走なら殺すぞ」

「なんだ？」

「話があるんだ」

「なんだ？」

「根本君の着ている制服が欲しいんだ」

麗奈「・・・そういう趣味があるの？」

葵「趣味は人それぞれだからね～」

「違うからね！？」

雄二「そうだな、勝利の暁にはそれくらいなんとかしてやるつ・・・  
話はそれだけか？」

「それと、姫路さんを今回の戦闘から外して欲しい」

雄二「理由は？」

「理由は言えない」

雄二「どうしても外さければならないか？」

「うん。どうしても」

雄二「・・・」

「頼む、雄二！」

和哉「・・・ねえ、もしかしてだけどさ、姫路さん、卑怯者に脅されたりしてるの？」

「何故それを！？あつ！？（しまつた・・・）」

葵「へえ～そんなことする人がいるんだー（＼＼＼＼＼・・・）」

麗奈「・・・詳しく聞かせて（＼＼＼＼＼・・・）」

葵と麗奈は黒いオーラを出しながら明久に説明を求めた。

「・・・根本君が姫路さんが書いたラブレターらしきものをもつてた」

雄二「なるほどな、内容をばら撒かれたくなかったら、戦線に加わるなどでも脅されてるんだろうな」

和哉「・・・代表」

雄二「なんだ」

和哉「今回の賭けは反則負けでいいですか？」

雄二「いいだろつ、だがお前ら4人で姫路がやる予定だつたクソヤローに攻撃を仕掛ける役をお前らでやれ・・・できるな？」

「もちろんさ！」

葵「わかりました！」

麗奈「・・・やつてみせる！」

和哉「卑怯者に地獄をみせてやる！」

雄二「いい返事だ、俺はDクラスに指示をだしていく、あとは任せたぞ！」

和哉「今回はとやかくいつられないので見逃すよ・・・」

「3人とも、行くよ！」

そうして3人とともにもう一度Bクラスへと向かった。

Bクラス前。

根本「お前らいい加減諦めろよな。昨日から教室の出入り口に人が集まりやがって。暑苦しいことこの上ないっての」

雄二「どうした？軟弱なBクラスの代表サマはそろそろギブアップか？」

根本「ギブアップするのはそつちだろ？」

雄二「無用な心配だな」

根本「どうか？頼みの綱の姫路さんも調子が悪そうだぜ？」

雄二「お前ら相手じや役不足だからな。負け組代表さんよお」

根本「負け組？それがFクラスのことなら、もうすぐお前が負け組代表だな」

葵「どうやら間違いないみたいだね・・・（ピピピピピピピピ）」

和哉「ただで済むと思うなよ！」

麗奈「・・・許さない・・・（ピピピピピピ）」

葵「私たちが道をつくるから、咲井君は卑怯者を殺つて！」

明久「任せて！」

和哉「葵、麗奈、秀吉のほうをお願い！」

葵・和哉・麗奈「――サモン！――」

・左側入口（数学）

B1（189点）・B2（181点）・B3（148点）・B4（

201点)

B5 (176点) · B6 (169点) · B7 (171点)

VS

島田 美波 (213点) · 須川 亮 (43点)  
一ノ瀬 和哉 (631点)

B3 「600 overだと!？」

B2 「なんでFクラスにこんなヤツがいるんだよ！」

和哉「・・・”自爆”！」

そういうと和哉の召喚獣が光ながらBクラスの召喚獣に突撃して・・・

・爆発した。

・左側入口（数学）

B1 (0点) · B2 (0点) · B3 (0点) · B4 (0点)

B5 (0点) · B6 (0点) · B7 (0点)

VS

島田 美波 (213点) · 須川 亮 (43点)  
一ノ瀬 和哉 (1点)

和哉「明久！左側入口から行けるよ！」

根本「チツ！右側入口の半分は左側に移動し・・・」

根本が右側入口の部隊に指示するが・・・

・右側入口（化学）

B8 (0点) · B9 (17点) · B10 (32点)

B11 (31点) · B12 (0点)

VS

木下 秀吉 (47点)

川崎 葵 (413点) · 水無月麗奈 (327点)

葵「和くん、右側のほうももうすぐ終わるよー。」

右側入口の防衛をしていたB生徒も葵と麗奈の圧倒的点数の前にすでに壊滅状態だった。

根本「な、なんでFクラスに何人も高得点者がいるんだよー?」

明久「鉄人!B代表に日本史勝負を申し込みます!」

鉄人「鉄人いうなーーー承認!」

B13「近衛部隊が受ける!」

根本「ふつ、ははつ!だが残念だつたな!もうすぐ、前線部隊が戻つてくるからなあ!お前らの奇襲は失敗だ!」

「くつ! (だけど、僕の役目は達成したよ!)」

和哉「ムツツリーーーーーーーーー!」

和哉がそう叫ぶと保健体育教師・大島先生を連れてムツツリーーが窓から飛びこんできた。

根本「なつー?窓からだとー?」

康太「・・・Fクラス土屋 康太、Bクラス代表根本 恭二に保健体育勝負を挑む・・・サモン!」

根本「うわあああーーーーーーーー!」

・保健体育

土屋 康太(542点) VS 根本 恭二(203点)

ムツツリーーの召喚獣が根本の召喚獣を小太刀で一閃。

Bクラス代表、根本戦死。

鉄人「戦争終結!! 勝者・・Fクラスーー!」

## 第1-2話&1t・バカと転校生たちの怒り&gt;・(後書き)

次回はFクラスとBクラスの戦後対談の前にFクラスの策によって  
じぱつちりを受けたAクラスの話です（笑）。

「意見、感想等ありましたらよろしくお願ひします。

第1-3話&1t・Fクラス対Bクラスの裏で・・・&2t・(前書き)

今回はFクラス対Bクラスの試合戦争の間のAクラスの話です。

## 第1-3話&1t・Fクラス対Bクラスの裏で・・・&gt;

### 問題6

問・ベンゼンの化学式を答えなさい。

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・神楽坂蓮の答え

A・C<sub>6</sub>H<sub>6</sub>

### 教師のコメント

正解です。君たちには簡単すぎましたね

土屋康太の答え

A・ベン+ゼン=ベンゼン

### 教師のコメント

君は化学を舐めていませんか。

吉井明久の答え

A・B・E・N・N・E・N

### 教師のコメント

後で土屋君と一緒に職員室に来るよ。

B 対 F の 試 召 戦 争 中。

## Aクラスにて

優子一編子、お正月お祝

憂子「ええ、少し憂鬱

高橋先生「皆さん席について下さ」

宗一郎、またやせと来るかと思つたら初田に遅刻とはな

高橋先生「神楽坂君、入つて来て自己紹介をお願いします」

蓮 神樂坂 蓮です 一年間よ

ア女「彼女とか、いるのかな？」「？」「

高橋先生「では、私は試召戦争の立ち会いにいつてきますので、各

「血を吸っていいんだ？」

宗一郎「やつとめたか、  
蓮

蓮「もうすこし早く来る予定だつたんだけどね」

卷之二

愛子、「工藤  
愛子だよ、三口シクね  
一

蓮「うん、よろしくね！」

優璃「あれ？優子さん、蓮くんと面識あるの？」

優子 ええ、朝に変な人たちに絡まっているところを助けてもらつ

蓮「セツニツヒ、ちよつと職員室に用事あるからいつへるね」

優璃「わかったー」

そう言つて、蓮は教室から出て行つた。

薰「蓮くんは困つてゐる人は放つておけない子だからねー」

愛子「なんかかっこいいよね、そういうの。優子も惚れちゃつたんじゃないの？」

と、優子をからかうよつて愛子は言つた。

優子「な、何言つてんのよ！？／／／そんな訳ないでしょー！？／／／／」

／

愛子の言葉に優子は頬を赤く染めながら反論したが、

宗一郎「ほう、木下が蓮をねえ・・・」

愛子「冗談のつもりだつたんだけどねー」

薰「蓮くんは鈍感だから、がんばらないとねー、優子ちゃん」と、三人そろつてニヤニヤしながら優子に向かつてそう言つた。

優子「ちょ？／／／ちが！？／／／／」

翔子「・・・優子顔真つ赤」

優子「／／／／」

バタンッ！

小山「木下 優子はいるつ！？」

急に扉を開け飛ばし、Cクラス代表が教室に入つてきた。

利光「なんだい？騒々しいね」

優子「アタシに何か用かしら？」

小山「木下 優子・・私達を豚呼ばわりして・・許せないわ！・！」

優子「はい？」

小山「まだと惚ける気！いいわ、我々CクラスがAクラスに宣戦布告するわ！」

宗一郎「は？話がまったく見えないんだが・・・」

優璃「わたしあも全然意味がわからない・・・しかも宣戦布告されちゃつたし・・・」

利光「君はCクラス代表の小山さんかい？木下さんは遅刻してきてさつきたところだよ」

小山「そんな嘘には騙されないわよ！」

蓮「戻つたよー・・・つてどうかしたの？」

そこに蓮がもどってきた。

薰「えっとね、Cクラスの代表さんが木下さんに今日の朝罵倒され

たんだって、で腹いせに試召戦争を申し込まれたんだよ～」

小山「そりよ！私たちには豚小屋がお似合いですって！？訂正しなさいよ！」

優子「いや、訂正もなにもアタシいま登校してきたといひなんだけど」

蓮「うん、木下さんと一緒にさつき来たところですよ～。」

小山「じゃ、じゃあ誰なのよ！？たしかに、アンタだつたわよ！？と小山は優子を指差しながら言つた。

優璃「・・ねえ、優子さん、たしか双子の弟がいるんでしたよね？」

と、優璃は思案顔のまま優子にそつ尋ねた。

優子「え、ええ、いるわよ。」

宗一郎「…なるほどな、Fクラス代表・・・なかなか姑息な手を使つてくれるじゃないか」

薰「どゆこと？」

蓮「ん～優璃たちはCクラスの人たちを罵倒したのは、木下さんじやなくてFクラスに所属している弟だと考えてるわけだね？まあ木下さんにはそんな時間なかつたから違うのはわかってるんだけどね」

優璃「うん、麗奈や和くんに聞いた話なら、見分けがつかないほど

らしくいから」

優子「・・・秀吉に話聞いて来るわ・・・（返答次第じゃ身体中の関節外してやる！）」

優璃「今は試召戦争中だから、Fクラスには立ち寄れないですよ？」

蓮「そうだよ、一旦落ち着いて（ナデナデ）」

蓮は優子に声を掛け、頭を撫でて優子を宥めた。

優子「え？／＼あ、あの、その／＼（なんか物凄く落ち着くわ・

・／＼）」

愛子「優子気持ち良さそうだね～（一ヤ一ヤ）（一ヤ一ヤ）」

優子「はつ～？／＼／＼愛子何言つてるのよ！／＼／＼

宗一郎「話戻すぞ・・・」

蓮「そうだね」

優璃「蓮くんが言わないでよ・・・」

蓮「？？」

宗一郎「続きた、FクラスがCクラスを何故ウチに仕向けたかだが・・・CクラスとBクラスが同盟関係にあるからだな」

小山「何故それを知つてるのよ～？」

宗一郎「企業秘密だ。FクラスがCクラスを焚きつけた理由なんて

それくらいしかないだろ・・で、優璃、どうする？」

優璃「もう申し込まれたちゃつたし、Cクラスの皆さんには悪いけど、負けるわけにはいかないからね」

宗一郎「まあ、冷静に考えれば、勝てる訳ないのにな、無能代表のせいでのCクラスの連中はDクラスの設備行きだな」と、宗一郎は皮肉たっぷりにそう言つた。

小山「誰が無能よ！」

無論、小山は怒鳴りながら、宗一郎に詰め寄つていた。

薰「優璃～なんとかしてよ～」

優璃「う、うん。小山さん、今降伏するなら、設備は見逃します。その代わり、色々条件を飲んでもらいますけど

と、優璃が小山に対して、降伏勧告をするも・・・

小山「うるさいわよ！誰が降伏なんてするもんですか、開戦は午後からよ！首洗つて待つてなさい！」

完全に頭に血が上つてゐる小山が聞く耳持つはずなかつた。

## 第1-3話&1t・Fクラス対Bクラスの裏で・・・& 1t・(後書き)

次回は明日か明後日にAクラス対Cクラスの話を投稿する予定です。

ご意見、ご感想等ありましたらよろしくお願いします。

あとできればいいので、小説の評価もよろしくお願いします。

## 第14話&15話：Aクラス対Cクラス&gt;（前書き）

総合PV10000、ユニーク2000を突破しました！

これからも『バカと天才？たちと召喚獣』をよろしくお願いします。

今回はAクラス対Cクラスの話です。

## 第14話&15・Aクラス対Cクラス&gt;

### 問題7

問・女性は（ ）を迎える事で第一次成長期になり、特有の体付きになり始める。

姫路瑞希・川崎葵・神谷優璃・神楽坂蓮の答え

A・初潮

教師のコメント

正解です。

土屋康太・武内薰の答え

A・初潮と呼ばれる生まれて初めての生理。医学用語では、生理の事を月経、初潮の事を初経という。初潮年齢は体重と密接な関係があり、体重が41.5kgに達する頃に初潮を見るものが多い為、その訪れる年齢には個人差がある。日本では平均12歳。また、体重の他にも初潮年齢は人種、気候、社会的環境栄養状態などに影響される。- - - - 裏面に続く。

教師のコメント

詳しそぎます。

保健体育教師「先生のプライドを打ち砕かないでください・・・」

吉井明久・一ノ瀬和哉の答え

A・明日

### 教師のコメント

「すいぶんと急な話ですね。吉井くんがこの答えなのはわかりますが、一ノ瀬くんは意外ですね。」

### 桐谷宗一郎の答え

#### A・初恋

##### 教師のコメント

「たしかに恋は人を変えるといいますから間違っています。」

しかし桐谷くんがこんな問題を間違えるとは思いませんでした。

### 優璃 side

「というわけで、Cクラスに宣戦布告されましたので、今から作戦の説明を・・・宗くん、頼むね」

宗一郎「わかった。今回は相手もこちらも召喚獣を使い慣れてないだろうから、単純に力押しで行く。なるべく1対1で戦ってくれ。あと、点数が100点以下になつたら、すぐ回復試験を受けること。加えて召喚獣の操作のコツを掴んでもらおうと思っている。だから今回は前衛部隊に30人、中堅部隊に15人ずつ配置する。」

利光「まってくれ！ それじゃあ、代表の護衛がいないじゃないか！」

？」

久保くんは作戦に関して反論を述べたが、

宗一郎「いや、俺と薰と蓮と霧島で近衛部隊を引き受ける

と宗くんが付け加えた。

利光「まあ・・・それなら大丈夫だね」  
久保くんも納得したみたいですね。

薰「まあ、護衛なんかいなくても、優璃ならCクラスがよつてたか  
つたところで勝てないだろうけどね~」

宗一郎「作戦は以上だ、質問ある奴いるか?」

・・・シーン・・・

宗一郎「ないな、なら開戦まで自由にしていてくれ」

優璃 side out

そして午後になり、Aクラス対Cクラスの試合戦争が開戦した。

廊下にて。

・総合教科

久保 利光（3947点）・A前線部隊29人（平均2500点）

VS

C前線部隊・中堅部隊25人（平均1650点）

C「な、なんでこんなに前衛にいるんだよ！？」

C「早く援軍呼んでこい！突破されちまうぞ！」

利光「極力1対1で戦うんだ。点数を消費した者は無理する必要は  
ないから、回復試験へ行くんだ！」

戦況は開戦直後からAクラスの前線部隊の人数の多さ、加えて元々  
の地力の差でCクラスを圧倒していく、Cクラスの前線部隊と中堅  
部隊はどんどん戦死し数を減らしていく。

優子「アタシたちの出番はなさそうね」

愛子「そうだねー」

蓮「二人とも暇そーだね～」

愛子「あれ？ 神楽坂君、近衛部隊じゃなかつたつけ？」

蓮「Cクラスの生徒なんて誰一人来ないからね、優璃に許可ももらつて前線の様子を見にきたんだ～」

愛子「まあ、中堅部隊のボクたちでも暇してるくらいだからね～」

小山「なにやつてんのよ～？」

戦況差が圧倒的すぎ手が余り3人で雑談していると、C代表の怒声が飛んできた。

C「無茶いうなよ！？ 相手はAクラスだぞ！」

C「なんとかしろよ代表！？」

A「あいつがC代表だ！ 皆かれー！」

小山「近衛部隊！ 早く守りなさい！」

C「なら、なんでそんなに前線でてくんだよー！？」

小山「とにかく教室までひいて築城するわよー！」

Aクラスにて。

宗一郎「話にならんな」

優璃「ちょっと可哀想だけどね」

薰「戦況はどうなつてるの？」

翔子「・・・向こうの戦力は5割戦死、3割は戦死寸前・・・こつちは戦死が2人、2割ほどが回復試験をうけてる」

宗一郎「あと30分もかかるんだろ」

A「回復試験終わりました！」

優璃「うん、前線にいつて皆と戦つてきてー！」

A「了解しました！」

Cクラスにて。

小山「何なのよ一体！？」

小山「何なのよ一体！？」

C「どうすんだよ・・勝てるわけねえよ」

早くもCクラスは敗戦ムードで意氣消沈していた。

加藤「案の定無策で上位クラスに突っ込んでボロ負けって、無能にもほどがあるで」

小山「文句があるならアンタがなんとかしなさいよ!」

加藤「無茶いうなや、もうこっちの戦力は8割方瀕死状態なんや、こんなんでじゃないしろと?そもそもワイ以外にAクラスの奴を戦死させたやつおんのか?」

シーン・・・

加藤「・・・ホンマに誰もおらんのか」

A「そこのCクラスのヤツに世界史勝負を申し込む!・サモン!」  
篠城策もあつさりやぶられ、Aクラス生徒がCクラスになだれ込んできた。

加藤「ほいほーいっと、サモン!」

・世界史

加藤 寿也 (483点)

VS

A1 (296点)

加藤「その程度でワイに勝とうなど、10年早いわー!」

A「なつ! ? お前Cクラスだろ! ?」

加藤「んなもん関係あるかい!」

そう言いつと同時に加藤の召喚獣が相手の召喚獣を真つ一つにしていた。

加藤「代表、ワイは大人しく降伏すべきやと思つがの」

小山「いやよ!」

加藤「ならお前の首もつてAクラスと交渉するまでや!」

小山「え?」

そう言つと同時に加藤の召喚獣が小山の召喚獣を切り飛ばした。

加藤「あほらしい、これ以上付き追うてられるかい・・！」

鉄人「・・戦争終結！！勝者・・Aクラス！！」

宗一郎 side

Aクラスにて。

A「最終的には何故か仲間割れを起こしてC代表はCの生徒に戦死させられました」

「そうか、・・そこまで信用ないつてある意味すごいな、あの無能代表」

バンッ！

加藤「失礼すんで、Aクラス代表いなはるか？」

教室に大柄な生徒がそういうながら入ってきた。

優璃「はい、私ですが・・」

加藤「Cクラスの加藤や。さつきはウチの代表が失礼したな・・少し提案があるんやけど聞いてもらつてええか？」

優璃「なんでしょうか？」

「一応、聞こうか」

加藤「条件付きで設備ダウンを見逃してくれへんか？」

利光「最初にそれを蹴つたのはそつちなんだから、それは無理だね」「まあ待て、その条件は？」

加藤「Aクラスへの1学期の間は戦争禁止、加えて3ヶ月はAクラスの指示がない限り、全クラスへの戦争禁止でどないや？」

「（ほう、条件としては悪くないな・・）後一つ、Cクラス代表のAクラスへの立ち入り禁止をくわえるならいいだろう」

加藤「それくらいなら構わへんで」

利光「立ち入り禁止？そんなことする必要あるのかい？」

「いや、個人的にヒステリック小山の金切り声が鬱陶しくてな（逆恨みされて文句言わるのは勘弁だからな）」

薰「あはは・・・、本音と建前が逆になつてるよ・・・？」

「代表の自覚もなく、罵倒されたくらいで、冷静な判断もできないヤツなのにか？」

愛子「あはは・・・否定できないね・・・」

優璃「わかりました、なら和平交渉にて終戦つてことでいいですよ

加藤「おおきに！それじゃあ、用済んだから、帰らしてもううわ。ほな、さいなう。」

そういうて加藤はAクラスから立ち去つた。

A「なあ、たしか加藤つてAクラス候補だつたよな？」

A「だよな、なんでCクラスにいるんだ？」

バンバン！

「全員注目！今から点数を消費した者は回復試験を受けてもらひ、点数を消費した者は俺か優璃に申告してくれ！（加藤か・・・調べておく必要があるな）」

俺は教卓を叩いて、Aクラスの生徒にそう言い放つた。

薰「私は教室で寝てただけだからね～」

「点数を消費してない者は下校時刻になつたら帰つてくれて構わない、以上だ」

優璃「でもさ、Fクラス代表・・・坂本君だけ？・・・いくらなんでもやり過ぎだよ」

優子「・・・（秀吉・・・命の保証はないわよ・・・！）

翔子「・・・雄一にはお仕置きが必要」

「Fクラス代表には一回キツイお灸を据えてやるか

## 第1-4話&1t ; Aクラス対Cクラス&gt ; (後書き)

次回は近日中にオリキャラ紹介をした後、BクラスとFクラスの戦後対談の話を投稿する予定です。

ご意見、ご感想や誤字脱字等ありましたらよろしくお願いします。ついでに小説の評価もよろしくお願いします。

## オリキヤラ紹介（4）（前書き）

Aクラス対Cクラス戦ででてきたオリキヤラの紹介です。

## オリキャラ紹介（4）

名前：加藤 寿也

性別：男

読み：かとう としや

誕生日：4月7日

身長：196cm 体重：87kg

所属クラス：2-C

得意教科：日本史（503点）、世界史（499点）、保健体育（

407点）

苦手教科：古典（123点）

趣味：筋トレ・マラソン

特技：持久走（鉄人並）

外見：髪色は黒で、髪型は短髪でボサボサ。体格は鉄人とかわらな  
いぐらいで、制服を着てないと教師と間違えられる。

性格：基本めんどくさがり。だが、人に頼み込まれたら断れない性  
格。

・関西弁が特徴？

・振り分け試験では、振り分け試験で得意教科3教科を名前無記名で提出してしまい、Cクラス次席（1707点）でCクラス入りした。（ちなみにCクラス代表・小山は1711点）

・本来ならAクラスの佐藤 美穂と大差ないくらいの学力（総合で3316点）をもつており、Cクラスの生徒からの信頼も厚い。（クラスの大半の生徒が小山よりも代表に相応しいと思つて いる。）

・試験戦争には興味がなく、ある程度のクラス設備ならどこでもいいとのこと。

召喚獣の武器：大剣

召喚獣の服装：柔道着

腕輪の能力：現時点では不明。

## オリキャラ紹介（4）（後書き）

次回は明後日までにFクラスとBクラスの戦後対談の話を投稿する予定です。

第15話&16・戦後対談&go to・(前書き)

今回はBクラスとFクラスの戦後対談の話です。

問題8

問・人が生きていく上で必要となる5大栄養素をすべて書きなさい

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・神楽坂蓮の答え

A・脂質、炭水化物、タンパク質、ビタミン、ミネラル

教師のコメント

正解です。流石といったところでしょうか。

桐谷宗一郎（武内薰）の答え

A・薰（宗くん）がいればなにもいらない！

教師のコメント

まさか君たちからそんな回答がでてくるとは思いませんでした。

吉井明久の答え

A・砂糖、塩、水道水、雨水、湧水

教師のコメント

それで生きていけるのは頗りだけです。

終戦後、Bクラスにて。

雄二「さて、それじゃ嬉し恥ずかし戦後対談と行くか。な、負け組代表？」

根本「・・・・・」

雄二との視線の先には、先ほどまでの強気がウソの様に大人しくなつた根本が床に座り込んでいる。

雄二「本来なら設備を明け渡して貰い、お前らには素敵な卓袱台をプレゼントする所だが、特別に免除してやらんでもない」

B「なんだって！？」

F「何故だ！坂本！」

雄二の発言に対して、周囲が騒ぎ始める。

雄二「落ち着け皆。前にも言つたが、俺達の目標はAクラスだ。ここがゴールじゃない」

葵「やつぱりAクラスに仕掛けるんだね」

雄二「ああ。だから、Bクラスが条件を呑めば解放してやろうと思つている」

Bクラスの生徒も3ヶ月間ボロボロの教室に縛られる可能性からの脱却ともあり、雄二に視線が集まる。

根本「・・・条件はなんだ？」

雄二「条件？ それはお前だよ、負け組代表さん」

根本「俺、だと？」

雄二「ああ。お前には散々好き勝手やつて貰つたし、正直去年から

目ざわりだつたんだよな」

根本「・・・・・」

雄二「そこで、取引だ。Aクラスに行って、試合戦争の準備が出来てると宣言して來い。そうすれば今回は設備については見逃してやつても良い。ただし、宣戦布告はするな。すると戦争が避けられな

いから、あくまで戦争の意思と準備があるとだけ伝えるんだ

根本「・・・それだけでいいのか？」

和哉「そんな訳ないじゃん」

葵「君はやつてはいけないことをしたんだからね」

麗奈「・・・相応の罰が必要」

3人が根本の希望をあつさりと打ち砕くようにそう言い放った。  
雄二「そういう事だから、Bクラスがコレを着て先程言つた通りの行動をしてくれたら、見逃そう」

そう言つて雄二が取り出したのは、秀吉の変装の為に用意しておいた女子制服だった。

根本「ば、バカな事を言つたこの俺が、そんなふざけた事を！」

B「Bクラス生徒全員で、必ず実行させよつ！」

B「任せて！必ずやらせるから！」

B「それだけで教室を守れるなら、やらない手はないな！」

和哉「やっぱり評判悪いんだね、卑怯者君」

雄二「んじゃ、決定だな」

根本「くつ！ よ、よるな変態ぐふうつ！！！」

逃げようとした根本だが、Bクラスの面々が取り押さえ腹部に一撃。

B「とりあえず、黙らせました！」

雄二「お、おう。ありがと！」

和哉「手間が省けましたね。早速着付けに入りましょう

そういうて、和哉は根本の制服を脱がし始めた。

和哉「・・・男の服を脱がすって、思った以上に苦痛ですね・・・」

「うん、でも、目的のため・・・（吐き気が・・・）」

根本「う、うう・・・」

和哉「ん？明久、少し離れてて

「うん（何する気だろ？）」

和哉「おやすみー」

ボコッ！

根本「がふうつ！！」

うめき声を上げる根本から僕を離し、和哉は根本の腹部に一撃。そして、根本の服を脱がし切つた後、女子の制服をあてがつた。

「うーん・・・これどうやって着せるんだろ?」

和哉「その前に順序はあつてるんですか?」

B女「私がやつてあげるよ」

「そう? じゃあ折角だし、可愛くしてあげて」

僕はBクラスの女子生徒にそうお願いしたが、

B女「それは無理。土台が腐つてるから」

和哉「酷い言い様ですね・・・ぼくはこの制服を捨ててから、手を消毒してきますね」

秀吉「お主のほうがよっぽど酷いがのう・・・」

僕は根本の制服を探り、姫路さんのラブレターを取り出した。

「あつたあつた」

そして、僕は姫路さんのラブレターを返すためFクラスへ向かつた。

明久 side out

秀吉 side

明久が教室に向かつた後、姫路が教室に入つていく姿を見つけた葵殿とワシはニヤリと笑つた。

葵「明日の姫路さんの報告が楽しみですね」

「まあ明久じやから、あまり期待は出来んじやろうがな?」

葵「いくら鈍感でもさすがに気づかないかな?」

「そこは明久じやからの・・・」

根本「こつ、この服、やけにスカートが短いぞ!?」

ふと、聞こえて来た叫び声。

見てみると、そこには女子制服を纏い髪にリボンを付けた根本と吐きそうになつてている和哉の姿が。

和哉「自分で提案しといてなんだけど、おぞましいですね・・・」「は、吐きそうじゃ・・・（なんでものをみせてくれるのじゃー）」

根本「Fクラスの奴らーよくも俺にこんなことをー！」

B「すまないFクラスの方々、これから撮影会があるから急がないといけないんだ」

根本「き、聞いてないぞー！」

B「無駄口をたたくなー！ ほら、キリキリ歩け！」

葵「さて、秀吉くん、Cクラスの人たちと秀吉くんのお姉さんに謝りにいこつか」

「へ？ 何故じゃー？」

葵「何故ってそりゃあ、Cクラスの人を焚きつけるためにお姉さんのふりしてCクラスの人を散々罵倒したんじょ？」

「そ、そうじやが・・・あれば、作戦だつたから仕方ないのじゃー！」

バチンッ！

葵殿がワシの頬をひつぱたいた。

「え？ ・ なにするのじゃー？」

葵「ふざけないでー！ じゃ あ何？ 作戦だつたら何してもいい訳ー！」

葵殿は明らかにいつもと違う・・・怒りのオーラをまとめて、ワシにそう言い放つた。

「あ、あれば演劇の一環でー・・・」

葵「今の秀吉くんに人の前で演劇をする資格なんてない！」

「なー？ 何故そんなこというのじゃー！ ーワシだつて必死に演劇の練習をしてるのじゃー！」

葵「人の気持ちも考えない様な人に人に魅せる演劇なんてできる訳ないし、そんな人に演技なんてしてほしくないー！」

「うつー？ じゃが・・・」

葵「もういい・・・私はAクラスにいって来るから・・・」

葵殿は怒りながらワシにそう言い放ち、Aクラスへ向かっていった。

## 第1-5話&1t・戦後対談&go t・(後書き)

はあ・・・なんか ~~おお~~ だし・・文才がほし・・

ご意見、ご感想や誤字脱字等ありましたらよろしくお願いします。  
ついでに小説の評価もよろしくお願いします。

次回は△クラスに向かつた葵の話とその後の秀吉の話です。

## 第1-6話&1-7・謝罪とい秀吉の後悔&gt;>・(前書き)

徐々にですが、1日のPV・ユニークが増えてきて嬉しい限りです。

## 第16話&17話：謝罪と秀吉の後悔&gt;；

### 問題9

バルト三國と呼ばれる国々をすべてあげなさい。

姫路瑞希・川崎葵・神谷優璃・桐谷宗一郎・神楽坂蓮の答え

A・リトニア、エストニア、ラトビア

教師のコメント

その通りです。

一ノ瀬和哉の答え

A・魏、吳、蜀

教師のコメント

先生も三國志は好きです。

武内薫の答え

A・ドイツ、オーストリア、イタリア

教師のコメント

それはバルト三國ではなく三國同盟です。

土屋康太の答え

A・アジア、ヨーロッパ、浦安

教師のコメント

土屋君にとっての国の定義が気になります。

吉井明久の答え

A・香川、徳島、愛媛、高知

教師のコメント

正解不正解の前に、数が合つてないことに違和感を覚えましょう。

葵 side

Bクラス対Fクラスの試合戦争終戦後。

Aクラスにて。

パタンッ！

「失礼します」

薰「あれ？葵、Aクラスに何か用？」

「うん、木下さんいるかな？」

薰「優子？ちょっと待ってね」

「うん」

薰が木下さんを連れて戻ってきた。

（・・・秀吉くんにそつくりですね。）

優子「えっと・・・」

「あ、2-Fの川崎 葵です」

優子「木下 優子よ」

薰「あれ? 面識なかつたの?」

優子「ええ、初対面だとと思うけど、何か用かしら?」

「その、Cクラスの・・・秀吉くんのことで謝りにきたんです」  
そう言つた後、私は木下さんに頭を下げた。

優子「じゃあやつぱり・・・（秀吉・・・アンタの関節の数、倍  
くらこにしてあげるわー）」

木下さんは秀吉くんをどう始末するか思案したみたいです。

宗一郎「ま、予想通りだな」

優璃「えつと、葵が謝るこじじゃないんじゃ・・・」

宗くんと優璃もいつの間にか話に加わっていた。

優子「そつよ、悪いのはあのバカの弟だから川崎さんは気にしない  
で」

翔子「・・・優子たち何話してるの?」

「ちょうどそこ」に霧島さんが来て、何を話しているのか、と聞いてきた。

優璃「えつと、優子さんのふりしてたのが優子さんの弟だつたって  
話ですよ」

宗一郎「で、葵が謝りにきたが、本人はいわけだ」

翔子「・・・どうして?」

葵「『作戦だから仕方ないのじゃ!』って言つてました・・・」

宗一郎「善悪の区別もつかないのか? そいつは

「バタンツ!」

秀吉くんがCクラスにしたことにについて私たちで話していると、和哉がAクラスにやってきた。

和哉「失礼します、蓮兄いますか?」

愛子「ん? 僕、どこからきたの? 迷子?」

和哉「・・・(シクシク)」

優璃「和くん、いちいち泣かないの」

和哉「また小学生扱い・・・」

優子「一ノ瀬くん、蓮兄つて？」

蓮「その呼び方できればやめてほしいんだけどなあと、本を読んでいた蓮くんがこっちに向かって来ながらソソつ言つた。

優璃「でも見た目は兄弟で問題ないよ？（笑）」

和哉「・・・もつやだ」

（こめん・・否定できない・・）

愛子「蓮くんと兄弟なの？でも、苗字ちがつよね？」

蓮「いや、兄弟じゃないですから」

優子「え？ そうなの？」

宗一郎「和哉が勝手にそう呼んでるだけだ」

蓮「もう慣れたけどさ。で、何か用かな？」

和哉「今日の晩御飯なにがいいですか？」

愛子「ん？ 晩御飯一緒に食べに行くの？」

薰「えつと、和くんと蓮くんは同居してるんだよ」

愛子「へえ・・・ねえ、もしかして神楽坂君か一ノ瀬君つてお金持ちの家の子なの？」

宗一郎「ん？ 蓮は神楽坂財閥の御曹司だし、優璃も神谷財閥の（）令嬢で、薰の親も大企業の社長の娘だ」

愛子「神楽坂財閥と神谷財閥つて、国内有数の大財閥だよね・・・

薰「あのさ、葵の話はもついいの？」

宗一郎「まあいいんじやないか？ Fクラスのことは葵も気にするな、Fクラス代表にはきつちりお灸を据えてやる」

「うん・・・」

優子「なにも川崎さんが気にすることじやないわよ（秀吉・・アンタの関節使い物にならなくしてあげるわ！）」

（木下さん・・・殺氣が駄々漏れですよ・・？）

蓮「木下さん、暴力はダメですよ

優子「え！？」

翔子「・・・そんな殺氣だしてたら、誰だつて気づく」

宗一郎「そういえば和哉、Fクラス代表はウチを狙つてるのか？」

和哉「うん、そうみたいだよ」

宗一郎「なら相手の作戦にあえて乗つかつて全部看破してFクラス代表のプライドを粉々に打ち碎いてやるか」

薫「宗くんらしいね」

その頃Fクラスにて。

明久「（やつぱりあのラブレターは雄一宛なのかな……）」「姫路さんのラブレターを姫路さんの鞄に戻し終えた明久は考え込んでいた。ちょうどそのとき、

ガラツ！

秀吉が目に涙を溜めて戻ってきた。

秀吉 side

「…………（間違いなく嫌われたのじゃ……）」

明久「え？ どうしたの？？秀吉！？」

「葵殿に怒られてしもうたのじゃ……」

明久「ど、どうして？」

ワシは泣くのを堪えながら明久に事情を説明した。

明久「…………もう下校時刻過ぎてるから明日Cクラスの人たちに謝りにいこう。今考えればいくら作戦とはいえやり過ぎだつたしガラツ！」

そこに麗奈が辺りを見回しながら教室に戻ってきた。

麗奈「…………2人とも、葵と和哉、しらない？」

「葵殿ならAクラスにいったのじゃ……（きっとまだ怒つておるじやろうな……）」

と、ワシは俯きながら麗奈にそう言った。

麗奈「…………木下くん……どうかしたの？」

麗奈はワシの様子がおかしいことに気づいたようで、声をかけてきた。

明久「えっと、実は・・・（事情説明中）なんだ。」

麗奈「・・・怒るのも無理ないと思う・・・葵は演劇が本当に大好きで、必死に努力してる・・演劇も演劇以外においても・・・だからそんな演劇を冒涙するような真似したら怒るに決まってる」

「ワシはそんなつもりは・・・」

麗奈「・・・Cクラスの人からしてみれば秀吉くんに罵声を浴びせられただけだよね。・・・それに葵は秀吉くんのことを演劇のライバルだと思ってるからこそ本気で怒ったんだと思う」

「じゃが、今回のことでの間違いなく嫌われたのじゃ・・・」

明久「で、でも謝ればきっと許してくれるよー」

「いや、よくよく考えてみればワシも同じ状況ならワシみたいな奴とつるみみたいとは思わんのう・・・」

麗奈「・・・大丈夫、葵は自分の非を認めてちゃんと謝れる人を足蹴にしたりしない・・・それに秀吉くんもこのままじゃ嫌でしょ?」

「それはそうじゃが・・・」

明久「と、とにかく明日Cクラスの人たちと一緒に謝りに行こー!秀吉!」

「う、うむ・・・そうじゃな・・・」

麗奈「・・・そろそろAクラスに行つて葵たちと帰るから」

「うむ、すまなかつたのじゃ麗奈殿」

麗奈「・・・きにしなくていい」

そう言つて、麗奈は鞄を持つて、教室から出て行つた。

「明久よ、すまなかつたのじゃ・・・こんな話につき合わせて」

明久「ううん、元はと言えば僕や雄一にも非があるわけだからね、さてと、そろそろ帰ろっか秀吉」

「（はつ！？今日は家に帰つたら姉上に殺されかねんのじゃ・・・）あ、明久よ！今日はお主の家に泊まりに行つてもよいかの？」

明久「へ？急にどうしたの？」

「た、頼むのじゃーワシはまだ死にとつないのじゃー。」

明久「？」

ワシは明久の家に泊まる約束を取り付けてなんとか姉上の脅威から逃げ去った。

（明日は姉上にも謝らねば・・・しかし、葵殿に嫌われると思うと何故か胸が締め付けられるような感じがするのじゃが、これはなんのじやろつか？）

今回も読んでいただきありがとうございました。

ちょっとここでアンケートをとりたいと思います。

今回はあんまり話にでてきませんでしたが、

見た目が小学生の一人瀬和哉オリキヤラと誰をカツプリングさせようか（もしくはカツプリングなしか）悩んでいます。

ですので、誰とのカツプリングが見たいかを教えていただきたいです。（翔子、優子、オリキヤラ、文月学園の生徒ではない人以外でお願いします。）

ちなみに、アンケートの期間はまだ決まっていません。  
お手数かけますが、よろしくお願いします。

頼む あなたですね(笑)。

## 第17話&1t;Aクラスとの交渉&gt;;

### 問題10

以下の文章の（ ）にはいる正しい物質を答えなさい  
・ハーバー法と呼ばれる方法にてアンモニアを生成する場合、用いられる材料は塩化アンモニウムと（ ）である。

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・神楽坂蓮の答え

A・水酸化カルシウム

教師のコメント

正解です。

土屋康太・武内薰の答え

A・塩化吸収材

教師のコメント

勝手に便利な物質を作らないように。

吉井明久の答え  
A・アンモニア

教師のコメント

それは反則です。

明久 side

翌日。Fクラスにて。

秀吉と僕は朝一番でFクラスに謝罪しにいった後、教室に戻ると、教室には葵さんが一人で本を読んでいた。

葵「・・・おはよう」

そう一言僕らに無愛想に言つと、また本を読み始めた。

（やつぱり怒つているみたいだね・・・）

秀吉「あ、葵殿」

葵「・・・何」

葵さんは秀吉を睨みながらそう言つた。

秀吉「ワシが間違つてたのじゃーすまなかつたのじゃー」

葵「・・・Fクラスの人たちには謝りにいつたの？」

「うん、やつぱり散々罵倒されたけどね」

秀吉「じゃがワシらがしたことを考えたら当然じゃ・・・」

葵「そつか、わかつてくれたならいいよ。後は秀吉くんのお姉さんに謝りにいかないとね」

秀吉の言葉を聞いて、葵さんは秀吉を睨むのをやめ、いつもの様子に戻つた。

秀吉「そ、そつじやな・・・（ワシの命は今日までのよつじや・・・）」

ガラッ！

ちょうどそこに麗奈が登校してきた。

麗奈「・・・おはよー」

秀吉「麗奈殿おはよーのじゅ」

「おはよー」

麗奈「・・・仲直り・・・できた?」

秀吉「うむー」

麗奈「・・・よかつた」

時刻08:45

雄一「よし、皆注目してくれ!」

F「なんだ?」

F「対Aクラスの作戦会議か?」

雄一「まず皆に礼を言いたい。不可能だと言っていたのにも拘らずここまで来れたのは・・・他でもない皆の協力があつてのことだ感謝している」

「ゆつ雄一ひうしたの?らしくないよ?」

和哉「明日は槍でも降つて来るのかな?」

雄一「流石に酷くないか・・・?だがこれは偽らざる俺の気持ちだ」

雄一「ここまで来た以上絶対Aクラスにも勝ちたい・・・勝つて生き残るには勉強が全てじゃない現実を教師どもに突きつけるんだ!」

!」

F「おおーーツ!..」

F「そりだあーーツ!..」

F「勉強だけじゃねえんだーーツ!..」

雄一「皆、ありがとう。そして残るAクラスだがこれは一騎討ちで決着をつけたいと考えている」

和哉「一騎打ちですか?」

須川「それで本当に勝てんのか?」

雄一「ああ、俺を信じてくれ。過去に神童とまで言われた力を、今

皆に見せてやるー。」

Aクラスにて。

恒例の宣戦布告、今回は代表の雄一と僕と秀吉、康太、和哉、葵さん、麗奈ちゃん、姫路さん、島田さんという首脳陣勢揃いでAクラスに来ていた。

久保「一騎討ちかい?」

雄一「ああ。Fクラスは試召戦争として、Aクラス代表に一騎討ちを申し込む」

葵「（まさか優璃に勝つ気なのかな?）」

和哉「（もしかして、今まで手を抜いてたとか?）」

久保「何が狙いなんだい?」

現在、Aクラス側の交渉の席についているのは久保くん一人。

雄一「もちろん俺たちFクラスの勝利が狙いだ」

久保「面倒な試召戦争を手軽に終わらせる事ができるのはありがたいが、だからと言ってわざわざリスクを犯す必要もないね」

雄一「賢明だな、ところで、Cクラスの連中との試召戦争はどうだつた?」

久保「時間は取られたはしたが、それだけだが? 何の問題もないね」

雄一「Bクラスとはやりあう気があるか?」

久保「Bクラス・・・昨日来て居たあの・・・ウ普ツ!・・・」

雄一の言葉に久保くんは昨日のアレ（根本の女装）を思い出したらしく、吐きそうになっていた。

雄一「ああ。アレが代表をやっているクラスだ。幸い宣戦布告はまだされていないようだが、どうなることやら」

久保「だが、BクラスはFクラスと戦争して負けたんだから試召戦争は3ヶ月禁止のはずじゃなかつたかい?」

雄二「知つてゐるだろ？事情はどうあれ、対外的にはあの戦争は和平交渉にて終結』つて事になつてゐることを。規約にはなんの問題も無い」

バタン！

そこに遅れてAクラスの二人が入つてきた。

宗一郎「遅れて申し訳ない」

優璃「失礼します」

久保「用事はすんだのかい？」

宗一郎「ああ、それで話はどうなつてゐる？」

久保「・・・Bクラスが攻めて来るらしい」

宗一郎「いや、それはない」

雄二「は？なにいつてるんだ？」

その時、外から、

小山『我々Cクラスは、Bクラスに宣戦布告をします！！！』

根本『友香！？どうしてだ！？』

宗一郎「こうこうことだ」

雄二「な！？どういうことだ！？」

宗一郎「簡単な話だ、Cクラスを倒したのち、設備ダウン回避を条件にCクラスをいいなりにした。ただそれだけだ

「ど、どうすんのさ」雄二「！？」

優璃「あれ？あ、あなたは！？」

「へ？（誰だらうこの子？可愛い子だな）」

優璃「あの時わたしを助けてくれた人ですよね！？」

葵「ん？優璃、吉井君と面識あるの？」

優璃「この前変な人に絡まれた時に助けてくれたんだよ／＼／＼

「ああ！あの時の！？無事でなによりだよ！」

姫路「また、吉井君の側に綺麗な子が・・・」

島田「これはボッキリ話を聞かないと・・・」

話を聞いていた2人は何故か黒いオーラを出しながら、僕に迫つてきた。

「待つて！ボツキリはおかしいから！？」

宗一郎「・・・話をもどしていいか?」

優璃「あ、ごめんなさい//」

宗一郎へきて、「そ  
一騎打ちの件だが条件付きで別に受けても構わない

雄  
—  
・  
・  
・  
条件はなんだ?」

翔子……負けた……かなんでも言いいとをひとつあく

羽子「……私は誰」

僕・康太（・・・は？・・・あとで異端審問会にリーク決定！！）  
宗一郎「あとは代表一騎打ちじゃなくて、9対9で、こっちが指定  
したんだからな、科目選択権はそっちに5つ、こっちに4つでいい  
だろう。・・・これなら受けてもいい、いいな、代表」

## 優璃

秀吉「うむ？ 代表は霧島ではなしのかのか？」

翔子・・・私は代表しやなし

玄一は?

葵・利害・え・知りなが・たの・

卷一百一十一

卷二

雄一「……午後からでどうだ？（まあいな・・となると俺の作戦は無意味じゃないか・・だが、いまさら後には引けねえ）」

宗一郎「まあいいだろう、交渉成立だ」

## 第17話&1t ; Aクラスとの交渉&agt ; (後書き)

引き続きアンケート（第16話の後書きに詳しいことは書いてます。）を行っていますのでご協力お願いします。

あと「意見、誤字脱字等ありましたら感想に書いてください」と助かります。

第18話&19話  
Fクラス対Aクラス戦前&gt;(前書き)

総合PV15000を突破!

## 第18話&19話クラス対Aクラス戦前&gt;

### 問題1-1

以下の（ ）に当たる歴史上の人物を答えなさい。  
・樂市樂座や関所の撤廃を行つたのは（ ）である。

姫路瑞希・川崎葵・神谷優璃・桐谷宗一郎・神楽坂蓮の答え  
A・織田信長

### 教師のコメント

あなたたちには簡単な問題でしたね。

島田美波の答え  
A・ちゃんまげ

### 教師のコメント

日本にはもう慣れましたか？この解答を見て、先生は不安になりました。

吉井明久・武内薰の答え

A・ノブ

### 教師のコメント

ちょっと馴れ馴れしいと思います。

### 教師のコメント

ちょっと馴れ馴れしいと思います。

一ノ瀬和哉の答え

A・人

教師のコメント  
真面目に答えてください。

一ノ瀬和哉のコメント

えっと・・・真面目に答えたつもりなんですが・・・

Aクラス side

優璃「一」というわけで、Fクラスとは9対9で戦い5勝したほうが勝ちとなります。」

宗一郎「多分向こうは元学年次席の姫路や1教科に特化した奴で勝とうとしてくるだろう。いくつかは負けるだろうがAクラスの勝利には問題ない」

優璃「それじゃあ、一騎打ちのメンバーを・・・宗くん」

宗一郎「わかった、メンバーは霧島、久保、木下、工藤、佐藤、武内、神楽坂、俺、代表だ」

Fクラス side

雄二「一」ということだ。Aクラスとは9対9の勝負で5勝したほうが勝ちとなる。そこで今から相手の情報についてマッリーニから報告がある

康太「・・・雄一はAクラスの霧島 翔子と幼馴染・・・その上許

嬪との「」を：・・・許すあじ：・・・」

おーなー!? なぜみんな急に上履きを構える! ?

# 明久一 黙れ男の敵！」

須川「そうだ！霧島さんと幼馴染だとなんて羨ましい！」

明日アケテア戦の前にギザマを殺す！」

雄  
一  
俺が何をした!?

須川「遺言はそれだけか？」

明夕 待てんた須川君 紐なしハンジーはまた旱い それは金員で

須川「了解です。隊長！」

姫路「あの、吉井君？」

明久「ん?」可、姪路さん

明治「瓶井帆井繩糸セラミック」

明久「そりや、まあね……美人だし……」

さんは僕に向かって攻撃態勢をとるの？それと島田さんも僕に向か

「掃除箱なんてなげようとしてるのを！？」

和哉（なんが如跡の久も最近壞れてきのうれ

「アヒルの着ぐるみ、ちびっこ用のアヒルの着ぐるみも、

明久「で、でも！」

和哉「Aクラス戦が終わったら殺つてしまつてもいいから（笑）」

おー！ まあ 通り話をするのはいいが

和哉、そなへにFF団の皆さんにはスタンガンを1人

卷之三

雄一「……俺はどう反応すればいいんだ?」

和哉「・・・やつぱりスタンガンの貸し出しさ中止します」

F 「 」 「 」 「 」 「 チツ 」 「 」 「 」 「

雄二 「 川崎、助かつた」

葵 「 いえ、さすがにスタンガンはやりすぎですでの」

須川 「 仕方ない・・・葵さんがそういうのならこの件は不問とする」

F 「 ああ、不本意だが仕方あるまい」

葵 「 で、何か言つことがあつたんじゃないの?」

雄二 「 ああ、そうだつたんだが、そろそろ開戦の時間だ。そのことについてAクラスについてからでいいだろ」

葵 「 ならいいけど」

雄二 「 さあ皆! Aクラスを倒してシステムデスクを我が物にするぞ

」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「

F 「 」 「 」 「 」 「 おおお――・」 「 」 「

## 第18話&19・Fクラス対Aクラス戦前&gt;・(後書き)

引き続きアンケートを行つておりますのでご協力お願いします。

第16話の後書きに詳しいことは書いてあります。

次回はFクラス対Aクラス戦の話を投稿する予定です。

## 第19話&1t:Fクラス対Aクラス・開戦!&gt; (前書き)

お気に入り登録15件、ユニーク3000突破!

今回からAクラス戦です。

## 第1-9話&1t・Fクラス対Aクラス・開戦!-&gt; ;

### 問題1-2

以下の問い合わせ（ ）に人名をいれなさい。

・江戸幕府八代将軍は（ ）である。

姫路瑞希・川崎葵・神谷優璃・桐谷宗一郎・神楽坂蓮の答え

A・徳川吉宗

教師のコメント  
正解です。

吉井明久・武内薰の答え

A・暴れん坊将軍

教師のコメント

ある意味正解ですが、問題文をちゃんと読んでください。

一ノ瀬和哉の答え

A・マシュー・ペリー

教師のコメント

一ノ瀬くんは歴史が苦手のようですね。

西村先生に補修を依頼しておきましたのでみっちり勉強してきてください。

明久 side

Aクラスにて。

高橋先生「では、両クラス共準備は良いですか？」

雄二「ああ」

優璃「問題ありますん」

高橋先生「それでは1人目どうぞ」

雄二「島田、任せたぞ」

島田「それじゃあ、いつてくるね！」

宗一郎「さてと、俺が相手をしてやるよ」

Aクラスからは、身長が雄二くらいありAクラスとの交渉のときにいた桐谷くんがでてきた。

高橋先生「教科は何にしますか？」

島田「数学でお願ひします！」

（島田さんは数学ならAクラス並の点数があるからね）

高橋先生「わかりました」

宗一郎「まずは1勝させてもらつか」

高橋先生「それでは第1試合開始！」

宗一郎・島田「サモン！？」

・第1戦目（数学）

Fクラス・島田 美波（263点）

島田「ウチは数学だけならAクラス並の学力があるのよー。」

宗一郎「たしかにAクラス並だな、・・・だが」

宗一郎「俺の敵じゃないな」

卷之二

バキュリーン!!

宗一郎の召喚獣が放つた銃弾が島田の召喚獣の眉間に撃ち抜き、島田の召喚獣は戦死した。

高橋先生—勝者・Aケラス、桐谷宗一郎！」

齋田「うむ、またやつた・・・」

「仕方ないよ、相手が学年次席だつたんだしAクラス並の点数じゃ勝てないのもわからない頭一腕がもげる————！！」  
僕は喋っている途中に島田さんに間接技を掛けられた。

島田「アンタにだけは言われたくないわよ！」  
メキメキ！ 僕の腕の骨が軋む音。

「か、和哉！助けて！」

和哉。今回はつかりは明久が悪いね。

ゴキュ！  
僕の腕の間接が外れる音。

（い、痛い・・・まさか本当に間接外されるとは思わなかつたよ）  
葵「（ボソッ）」とある「」とに暴力振るうから気づいてもらえなん

じゃないのかな？」

麗奈「（ボソッ）……私もそう思ひ」

「いてて……一人ともどうかしたの？」

葵「なんでもないよ」

麗奈「……なんでもない」

Fクラス・0対1・Aクラス。

## 第19話&1t・Fクラス対Aクラス・開戦!-&gt;-(後書き)

引き続きアンケートを行つておりますのでご協力おねがいします。

第16話の後書きに詳しいことは書いてあります。

ご意見、ご感想、誤字脱字等ありましたら感想に書いてくださいと  
助かります。

第20話&1t・葵の怒り&gt;・(前書き)

Aクラス戦・2戦目です。

## 第20話&11話の怒り&got;

### 問題13

以下の問いに答えなさい。

西暦1492年、アメリカ大陸を発見した人物の名前を答えなさい。

姫路瑞希・川崎葵・神谷優璃・桐谷宗一郎・武内薰・神楽坂蓮の答え

A・クリストファー・コロンブス

教師のコメント  
正解です。

一ノ瀬和哉の答え

A・豊臣秀吉

教師のコメント

進歩がみられないでの、西村先生に補修の強化を申請しておきます  
ね。

秀吉 side

高橋先生「それでは2人目どうぞ」  
優璃「久保くん、お願ひします」  
利光「わかりました、代表」

雄一「秀吉、頼んだぞ」

「わかつたのじゃ！（とはいつたもの）の、久保に勝てる教科なんてないのじゃ……」

久保「木下くんか。まさか君がAクラスの振りして挑発して、Cクラスを僕たちに仕かけてくるとはね」

「（やはりAクラスの連中はワシがやつたことを知ってるのじゃな。・・・）・・・そのことに関しては悪いとおもつておるのじゃ」

久保「まあ、演劇なんて勉学に無意味でくだらないものに現を抜かしてゐる！クラスの君に何を言つても無駄だつたね」

（こやつ・・・今何て言つたのじゃ？・・・演劇がくだらないものじやと！？）

「今の言葉を訂正」

葵「秀吉くん、代わつてもうりえむかな・・・」

「（こ）ち・・・あ、葵どの！？ 一回落ち着くのじゃ！」

ワシの言葉を遮つて、後ろから葵が声をかけてきた。その要求を断つとワシが後ろを振り返ると、葵はワシを怒つて怒鳴りつけたときと同じ・・・いや、それ以上に怒りをあらわにして久保を睨みつけていた。

葵「秀吉くんは黙つてて！」

和哉「演劇をくだらないものなんて言つたら、葵さん怒るに決まつてるじゃん」

雄一「和哉！川崎をなんとかしろー！」で川崎に負けられると困る

！」

和哉「怒つた葵さんを止めるなんて無茶言わないでください」

葵「代表！私が秀吉くんの代理で出ます・・・！いいですよね・・・！」

（そう言つて、葵は雄一にすいに劍幕で迫つてこつた。）

雄一「わ、わかつた！？」

久保「誰が来よつと結果は同じだよ。高橋先生、教科は総合科目でお願ひします」

高橋先生「わかりました」

久保「それじゃあ、よろしく」

葵

## 高橋先生 一 それでは第2試合開始!』

久保一サモン！」

## ・第2戦目（総合科目）

アケラス - 久保 利光 (3997点)

島田「す”い点数・・・第5位ですらこんなに点数高いの・・?」  
明久「いくら葵さんが総合でAクラス並でも、この点数相手じゃ・・

和哉「ああ、流！」……どう

麗奈「……だけど、あの程度じゃ葵の足元にも及ばない」

葵  
十一

Fクラス - 川崎 葵 (10902点)

昭格·噶田「「」」

ପାତା ୧୦୦ ପରିବାର ପରିବାର ପରିବାର ପରିବାର

「なんだあの点数!」

A 「 外側の点数の倍以上になりましたが…」

雄一「お、おい和哉。あの点数はなんだ・・・?」

ワシを含めこの教室にいる大半が葵の点数に驚愕した。

和哉「まあ、葵さんですし」

雄一「いや、答えになつてねえぞ・・・」

明久「僕の点数の10倍以上だよ・・・」

久保「な、なんなんだその点数は！？」

葵「・・・”光線”！」

葵がそう言い放つと、葵の召喚獣の輪刀が光り始め、次の瞬間には輪刀から光線が発射され、久保の召喚獣に直撃し一瞬で消え去った。

高橋先生「勝者・Fクラス、川崎 葵！」

久保「な、Fクラスなんかに・・・」

葵「さっきの言葉、訂正してください・・・！」

そう言って、葵は久保に掴みかかっていた。

久保「・・・すまなかつたね君の夢を貶したりして」

葵は久保の謝罪の言葉を聞いて、掴んでいた久保の制服の襟から手を離し、Fクラス陣営に帰ってきた。

そのときにはいつもの雰囲気に戻っていた。

「お疲れ様なのじや！」

麗奈「・・・お疲れ様」

葵「うん」

雄二「お疲れさん」

葵「すいません、代表。勝手に・・・」

明久「なにいつてんのさ！勝つたんだからいいにきまつてるよ！」

雄二「そうだぞ。川崎、よくやつてくれた。後は俺たちに任せろ！」

葵「うん、がんばってね。あと、この試召戦争終わってからでいいからAクラスの人たちに謝つたほうがいいと思いますよ、代表」

雄二「・・・わかつた」

そう言って、葵はFクラス陣営の後ろのほうにあるソファーに座った。

その後を追いかけて、ワシは葵のすぐ横のソファーに座った。

「すまなかつたのじや、ワシがあんなことをしなければ演劇をくだらないものとは言われなかつたじやろうに・・・」

葵「そうかもしないけど今更悔やんでも仕方ないよ。それに悔やんてる時間があるならバカにする人たちを演劇で見返せるように演技の練習をしようよ」

「そうじゃな、がんばるのじやー。」

葵「でも、その前に秀吉くんはお姉さんに謝らないことね」

「・・・わかつておるのじや」

秀吉 side out

## 第20話&1st・葵の怒り&gt;・(後書き)

引き続きアンケートを行つておりますのでご協力お願いします。

第16話の後書きに詳細は書いてあります。

ご意見、ご感想、誤字脱字等ありましたら感想に書いてくださいと  
助かります。

第21話 &lt; ; 観察処分者 &gt; ; (前書き)

Aクラス戦・3戦目です。

問題14

- （ ）に入る元素とその元素記号を答えなさい。  
1. 元素およびガス状分子の中で最も軽い元素は（ ）である。  
2. （ ）は空気中に約78・08%も含まれ、アミノ酸をはじめ、多くの生体物

質中に含まれており、すべての生物にとって必須の元素である。

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・神楽坂蓮の答え

- A 1. 水素・記号：H  
2. 窒素・記号：N

教師のコメント

正解ですね。これくらいは常識の範囲ですね。

土屋康太の答え

- A 1. 水素・記号：  
2 .

教師のコメント

どうして解答用紙が血まみれなんでしょうか？

雄一 side

高橋先生「それでは3人目どうぞ」

優璃「佐藤さん、お願ひします」

美穂「わかりました」

「よし、頼んだぞ、明久」

明久「え？ 僕がやるの？」

「大丈夫だ。俺はお前を信じてる（負けるほうにな）」

和哉「明久なら大丈夫だよ」

姫路「吉井くん、頑張つてください！」

麗奈「・・・頑張つて」

明久「わかったよ、やれるだけやつてみるよ」

「がんばれよ（さつさと負けて來い）」

高橋先生「教科は何にしますか？」

明久「日本史をお願いします！！」

高橋先生「わかりました」

美穂「よろしくお願ひします」

高橋先生「それでは第3試合開始！」

明久・佐藤「「サモン！！」」

・第3試合目（日本史）

Fクラス・吉井 明久（133点）

VS

Aクラス・佐藤 美穂（347点）

島田「え？」

「どういうことだ！？ 明久がDクラス並の点数をとっているだと！」

？」

姫路「すごいです！吉井くん！」

康太「・・・ビックリ」

明久「いやー、一昨日と昨日、勉強したかいがあつたよ」「どうしたんだ明久？お前が勉強するなんて・・・」

明久「ここまで姫路さんに雄二や和哉たちに頼りっぱなしだつたらね・・・少しくらいは力になれたらなつて思つてさ。それじゃあ佐藤さん、よろしくね」

佐藤「たしかになかなかの点数ですね。ですが、点数ならわたしのほうが上です！」

そう言つて、佐藤の召喚獣が武器の鎖鎌を振り回しながら明久の召喚獣に突撃してくるが、それを軽く回避して明久の召喚獣は木刀で佐藤の召喚獣にカウンターで連撃をくらわせてからすぐに距離を取り直す。

この攻防が10分くらい続いた。

Aクラス・佐藤 美穂（89点）

佐藤「くつ・・・やつぱりそつ簡単には攻撃させてもらえませんね」

明久「元々2倍以上の点差があつたんだから1発で致命傷になりかねないからね。それにファードバックがあるからダメージくらうと痛いんだよ」

佐藤「それもそうですね。・・・いきますよ」

そう言い、さつきと同じ様に佐藤の召喚獣が明久の召喚獣に突撃してくるが、もちろん明久の召喚獣は回避してカウンターで連撃をくらわせた。

佐藤「やつとうまくいきましたね」

ガシッ！

が、今度は明久の召喚獣が距離をとる前に佐藤の召喚獣に明久の召

喚獸が捕まつてしまつた。

エクラス - 吉井 明久(133点)

25

Aクラス - 佐藤 美穂 (56点)

明久 なつ！？

佐藤「いくら召喚獣の操作能力の高い吉井くんでも捕まえてしまえば回避しようがないですよね・・・これでおわりです」

御を捨て武器を振り上げる。

それに対して明久の召喚獣も防御を捨て、木刀を振り上げ切りかかる。

裂いていた。

エクラス - 吉井 明久(0点)

## Aクラス - 佐藤 美穂（0点）

高橋先生「そこまで、両者戦死のため、引き分けとします」

明久はそう言つてフイードバックによる痛みでのた打ち回  
明久：きやああああああ!!!! 体中は激痛が!!!! 「

麗奈「……大丈夫？」

姫路「だ、大丈夫ですか！？吉井くん！」

明久 う、うん。  
あきひき なんとかね・・・

「まさか捨て駒が引き分けに持ち込んでくれるとは思わなかつたな」「和哉「親友を捨て駒扱いってどうなんですか・・・?」

秀吉「惜しかつたのう明久よ」

明久「う、うん。『ごめんね皆』」

麗奈「・・・明久は十分頑張った」

姫路「そうですよ。とっても素敵でした！」

康太「・・・仇はとる」

Fクラス・1対1・Aクラス（1分け）。

## 第21話&1t ; 観察処分者&gt ; (後書き)

引き続きアンケートを行つておりますのでご協力お願いします。

第16話の後書きに詳細は書いてあります。

ご意見、ご感想、誤字脱字等ありましたら感想に書いてくださいると助かります。

第22話&1t・Aクラス側から4戦目&9t・(前書き)

Aクラス戦・4戦目です。

## 第22話&1t: Aクラス側から4戦目&go to:

### 問題15

以下の問いに答えなさい。

- ・家計の消費支出の中で、食費が占める割合を何と呼ぶでしょうか

姫路瑞希・川崎葵・神谷優璃・桐谷宗一郎・神楽坂蓮の答え

A・エンゲル係数

### 教師のコメント

正解です。一般に、エンゲル係数が高いほど、生活水準は低いとされています。

一ノ瀬和哉（武内薰）の答え

A・昨日の夕飯はハンバーグ（カレー）でした。

吉井明久の答え

A・今週は塩と水だけです・・・

### 教師のコメント

食事の内訳は聞いていません。

### 優璃のコメント

吉井くん・・・お弁当でもつくりてきましょつか？

### 明久のコメント

是非お願ひします！

高橋先生「それでは4人目、どうぞ」

雄二「秀吉、頼んだぞ！」

秀吉「了解じゃ！」

（相手は木下くんですか・・・誰にでももらいましょうか？）

優子「アタシに殺させてくれないかしら・・・！」

優子さんがわたしにそう言つてきた。・・・物凄い殺氣をだしながら。

「えーと、優子さん・・・字が間違つてますよ？それとその殺氣をしまつてください」

優子「字はこれであつてるわよ・・・？それと殺氣なんて氣のせいじやないかしら・・・？それじゃあ殺つてくれるから・・・！」

「ダメです。それじゃあ薰、頼んだよ」

薰「はーい、任せてよ～」

優子「（ボソッ）秀吉・・・あとで覚えときなさいよ・・・！」

（優子さん、その殺氣をしまつてくださいよ・・・わざわざから木下くんがずっと身震いしてますよ～）

蓮「木下さん、落ち着きなよ（ナデナゲ）」

蓮くんはそう言つた後、優子さんの頭を撫でて宥めていた。

優子「あう・・・／＼／＼

愛子「優子を落ち着かせるには、やつぱり蓮くんを呼ぶのが一番だね（ニヤニヤ）」

（どうやら藤さんが蓮くんを呼んだみたいですね）

優子「な、何言つてゐるのよ愛子！？／＼／＼

翔子「・・・優子の照れ屋さん」

蓮「どうこうこと?」

（・・・さすがは蓮くんといべきといひなのかな?・・・）

愛子「えーっとねえ（一ヤ一ヤ）」

優子「れ、蓮くんは気にしなくていいの!――」

蓮「?」

その様子を私も一ヤ一ヤしながら眺めていたら、

F「なんだあの男は!?木下さんとイチャイチャしているだよ!・・・」

F「しかも木下さんの頭を撫でていたぞ!・?」

F「許さん!殺せ!殺しつくせー!」

と、Fクラス側から蓮くんに対してものすごい怒声がとんでもいた。

薫「なんでだろ?向こうの人たちがものすごく意味不明な理由で怒ってるんだけど・・・」

「そうみたいですね（なんでそんなことで怒ってるんでしょうか?）

宗一郎「気にはんな」

F「うらあー、その罪死んで詫びるー!・・・

突然、Fクラスの一人がそう言つて、蓮くんに襲い掛かつてきたが、  
バキッ!ドゴッ!

一瞬にして、宗くんに殴り飛ばされた後、鈍い音をたてて床に叩きつけられていた。

宗一郎「はあ、妬みなんかで他人に暴力を振るうなよ・・・」

F「うるさい!お前に一人身の辛さがわかるか・・・」

（そういうことですか、たしかに蓮くんはモテますからね・・・た  
だ）

蓮「僕も一人身なんですが?」

（超がつくほどの鈍感さんなんですよね・・・）

「ちよつと蓮くんは黙つてて」

蓮「? ?」

A女×10「そうなの?だつたら私たちにもチャンスが・・・!」

（で、いつもこうなるんですね……）

翔子「……神楽坂はいつもこんな感じなの？」

「はあ、そなんですよ……」

高橋先生「……そろそろいいですか？」

高橋先生も呆れていた。

「薰、早く行つてきて」

薰「あ、ごめんね。高橋先生」

高橋先生「はい。では教科は何にしますか？」

薰「現代社会でお願いします」

高橋先生「わかりました」

宗一郎「まあ、この試合は見る必要ないだろ？がな」

優子「そうね。秀吉は全教科Fクラス並の成績だから見る必要もないわね」

（優子さん、落ち着いたみたいですね。……次からは私も優子さんを止めるときは蓮くんを呼ばうかな？）

高橋先生「それでは第4試合開始！」

・第4試合目（現代社会）

Aクラス・武内 薫（483点）

VS

Fクラス・木下 秀吉（38点）

薰「それじゃあ、いくよ～」

開始直後に薰の召喚獣が木下くんの召喚獣に速攻でショットガンを乱射し、木下くんの召喚獣は回避に徹するも回避しきれず、試合時間わずか5秒で勝負が決した。

高橋先生「勝者・Aクラス、武内 薫！」

薰「勝つたよ～」

「お疲れ様、薰」

宗一郎「ま、当然の結果だな」

蓮「これで2勝1敗1分ですね」

優子「38点つて・・・あとで秀吉にはCクラスのこととまとめて説教が必要ね・・・！」

Fクラス・1対2・Aクラス（1分け）。

## 第22話&1t・Aクラス側から4戦目&9t・(後書き)

引き続きアンケートを行つておりますので、「」協力お願いします。

第16話の後書きに詳細は書いてあります。

「」意見、「」感想、誤字脱字等ありましたら、感想にかけてくださいると助かります。

Aクラス戦・5戦目です。

問題16

以下の問いに答えなさい。

- ・味噌に足りない栄養素を補う為に味噌汁に入れるといい具材の例をあげなさい。

吉井明久・一ノ瀬和哉・神谷優璃・武内薰・神楽坂蓮の答え

A・ネギ

川崎葵・桐谷宗一郎の答え

A・タマネギ

教師のコメント

両方とも正解です。他には春菊などビタミンCが多く含まれる野菜がいいでしょう。

姫路瑞希の答え

A・ビタミンC、オレンジ、塩酸

教師のコメント

え？・・・それは料理ですか？

高橋先生「それでは5人目どうぞ」

雄二「ムツツリー、頼んだ」

康太「…任せろ」

（ムツツリーは保健体育ならAクラスの人だつて負けないからね）

優璃「工藤さん、お願いします」

愛子「はーい」

高橋先生「それでは、教科は何にしますか？」

康太「…保健体育」

愛子「土屋君だつて？かなり保健体育が得意なんだつてね。でも、ボクだつてかなり得意なんだよ…・・・キミと違つて、実技でね」

康太「…・・・じ、実技・・・（ブシュー！）」

そう言つて、康太は鼻血を出して倒れた。

「ムツツリーーー！」

僕は鼻血をだして倒れた康太に駆け寄つた。

「よくもムツツリーに、なんてひどいことを！」

愛子「そっちのキミ、吉井くんだつて？キミが選手交代する？でも、勉強苦手そうだね、保健体育でよかつたらボクが教えてあげるよ？・・・もちろん、実技でね

僕・康太「…・・・（ブシャー！）」

僕と康太は致死量並の鼻血を出して倒れた。

和哉「康太の鼻血の量はさすがにやばいかな？」

（和哉！どうして君はそんなに冷静なんだ！？）

島田「吉井には必要ないわよ！そんな機会一生ないから…」

姫路「そうです！吉井くんには今現在必要ありません！」

と、2人が僕の後ろから「藤さんに反論していった。

「・・・（ひ、ひどい。そこまで言つことないじゃないか・・・）」

秀吉「あの一人も存外鬼畜じやのう・・・」

和哉「あの一、2人とも、明久が死ぬほど悲しそうな顔をしてますよ・・・」

麗奈「・・・大丈夫？」

麗奈ちゃんだけは僕の心配をしてくれた。

「う、うん。ありがとう、麗奈ちゃん。大丈夫だよ、心に深い傷を負つたけどね・・・」

愛子「うーん、吉井くんは意外と競争率高そうだね。・・・てなわけで、ムツツリーくん？ ボクと保健体育の実技を」

康太「・・・・・（ブシャ――――！）」

和哉「・・・さすがにこれやばくないですか？」

葵「代表、これは選手交代させるべきかと・・・」

2人はこの状況でもいたつて冷静であった。

雄二「そ、そうだな・・・」

雄二もさすがにうろたえていた。

和哉「高橋先生。5戦目、Fクラスは土屋の代わりに須川をだします」

高橋先生「わ、わかりました」

和哉「明久、康太を運ぶの手伝つて」

「わかつたよ」

僕と和哉は康太を抱えて後ろに下がつた。

須川「おいおい、俺にAクラスを倒せなんて無理だぞ、それに戦死は勘弁」

須川は戦死が嫌だから戦いたくないらしい。

和哉「・・・（ボソッ）もし勝てたら麗奈がお菓子を作ってくれるつて言つてるよ？」

須川「・・・やつてやるぜ――――――！」

（Fクラスには雄二以外にも策士がいたみたいだね・・・）

高橋先生「それでは第5試合開始！」  
愛子・須川「サモン！」

・第5戦目（保健体育）

Aクラス・工藤 愛子（452点）

VS

Fクラス・須川 亮（97点）

和哉「・・・棄権しても一緒だったかな？」

愛子「えーと、なんか申し訳ないなあ」

スパン！

愛子の召喚獣は開始と同時に須川の召喚獣に攻撃を仕掛け一瞬で須川の召喚獣の首をきり飛ばした。

高橋先生「勝者・Aクラス・工藤 愛子！」

雄二「まあ、勝てるわけないよな・・・」

「そういえば、ムツツリー二は大丈夫なの？」

和哉「なぜかは知りませんが康太の鞄に輸血パックが大量にあつたので、とりあえず輸血しました。多分大丈夫だとおもいますよ」

雄二「あ、ああ。すまんな」

明久 side out

Fクラス・1対3・Aクラス（1分け）。

## 第23話&1t・実践派 vs 理論派（訂正）FFFE因念版&mt・（後書き）

引き続きアンケートを行つておりますので、ご協力お願いします。

第16話の後書きに詳細は書いてあります。

ご意見、ご感想、誤字脱字等ありましたら、感想にかけてくださいると助かります。

Aクラス戦・6戦目です。

## 第24話&1t；小学生の策略&gt;；

### 問題17

以下の英文を正しい日本語に訳しなさい。

Der Baseball ist eine von Sportarten in Japan am populärsten.

島田美波・神楽坂蓮・神谷優璃の答え

A・野球は日本で最も人気のあるスポーツのうちの一つです。  
これは英語ではなくドイツ語ではないでしょうか？

川崎葵・桐谷宗一郎・武内薰・坂本雄一の答え

A・問題が英語ではない為、解答不可

### 教師のコメント

申し訳ありません。先生のミスで違う問題が混入してしまいました。  
日本語訳は島田さん、神楽坂くん、神谷さんの回答で正解です。た  
だ、今回はこちらの手落ちなので無記入の人も含め、全員正解にし  
たいと・・・

土屋康太の答え

A・あぶりだし

吉井明久の答え

A・バカには見えない。

教師のコメント

・・・と思っていたのですが、土屋君は例外として無得点、吉井君

は減点しておきます。

雄一 side

高橋先生「それでは6人目どうぞ」

（まずいな・・・こっちが勝つためにはもう負けられない・・・が、こっちであと4戦全部とるのは厳しい）

優璃「優子さん、お願ひします」

優子「わかったわ」

（しかも、相手は木下姉か・・・木下姉は教科によってムラがないから正直な話、俺や和哉は論外、水無月は役不足だ・・・仕方ない、ここで姫路を出すか）

「ひま」

和哉「代表」

俺が第6戦に姫路を指名しようとしたが、和哉によつて遮られた。

「なんだ？」

和哉「6戦目は僕ができます」

「だが、もう負けられないんだぞ？しかも、6戦目は相手のほうが科目選択をするんだ、そうなると厳しくないか？」

和哉「大丈夫ですよ、策ならありますから」

「・・・わかった。だが、負けるのは許さねえからな！」

和哉「わかつてますよ。こっちからは僕がでます」

高橋先生「それでは教科は何にしますか？」

和哉「木下さん、木下さんの努力している教科で勝負しませんか？」  
和哉はいきなり木下姉に対して自殺行為とも呼べる提案をした。

優子「え？でも、それだと間違いなくアタシが勝つわよ？」

和哉「それはどうでしょう？」

（なるほどな・・・挑発して自分のペースで戦おうといつわけか・・・  
・だが、相手の得意教科だと厳しすぎないか？）

優子「・・・いいわ。高橋先生、英語でお願いします！」

木下姉はかなり不機嫌そうにそう言い放つた。

高橋先生「わかりました」

優子「アタシをバ力にしたことを後悔させてあげるわ！」

和哉「僕の挑発にのつた時点で木下さんの負けですよ」

高橋先生「第6試合開始！」

優子「サモン！」

・第6試合目（英語）

Aクラス・木下 優子（393点）

A「流石は木下さん、Aクラスでもトップ10にはいってるだけあるよな」

「くつ！（やはり400点ちかくあるな・・・これは終わったか？）

「麗奈「・・・和くんなら大丈夫」

「は？どう考えても勝ち目は薄いだろ？」

明久「そつか、雄一は知らないんだよね

「何がだ？」

麗奈「・・・見てればわかる

和哉「サモン！」

Fクラス・一ノ瀬 和哉（482点）

「は？」

優子「な、なによその点数！？」

和哉「何つていわれても・・・まあ、いつもいつも点へりへりい  
ですけどね」

「明久、水無月、知つてたのか？」

麗奈「（コク）・・・和哉は理系の3教科と英語は得意

俺のその問に水無月はそう言つてうなづいた。

明久「おかげでロクラス戦の時は助かつたからね。でもその代わり、  
古典は僕より低かつたけどね」

和哉「さてと、いきますよ」

和哉がそう言つと、和哉の召喚獣が木下姉の召喚獣に攻撃を仕掛け  
ていった・・・が、途中で止まりまた距離を取り直した。

優子「・・・どうこいつもりかしら？」

和哉「さあ？」

（ふざけてるのか？・・・いや、コイツはそんなことするやつじゃ  
ないな）

優子「そつちがこないならこつちから仕掛けるわよ！」

木下姉はそう言つと、木下姉の召喚獣が和哉の召喚獣に攻撃を仕掛け  
るも、和哉の召喚獣は回避に徹しているため、木下姉の召喚獣の  
攻撃は一向に当たる気配がない。

優子「くつ、ちょこまかと！」

（和哉・・・何を狙つている？）

明久「ねえ雄二、和哉の召喚獣がさつきから何か落としているよつ  
みえるんだけど」

明久にそう言われて、和哉の召喚獣をよく見てみると、たしかに何  
かの破片みたいなものを落としているのが見えた。

「あれはなんだ？」

明久「さすがにそこまではわからないよ。でも、和哉の召喚獣は攻  
撃をくらつてないのに点数が70点ちかく減つてるけど」

「どうこいつ？」

俺が明久に問い合わせたところ、

和哉「”爆破”！」

ドローン！

召喚ファイールド一帯が爆風と煙に包まれた。

島田「な、なにが起きたの！？」

姫路「わ、わかりません。でも多分、一ノ瀬くんの召喚獣の腕輪の能力だと思います」

そしてその煙が消えると、

Aクラス・木下 優子(0点)

▼S

Fクラス・一ノ瀬 和哉(37点)

高橋先生「勝者・Fクラス、一ノ瀬 和哉！」

優子「え？ な、なんで！？」

和哉「うまくいきましたね」

「は？ 腕輪の能力だとしてこの範囲はおかしいだろ！？」

麗奈「・・・さつき落としていたのは和くんの召喚獣の武器

「は？ だが、和哉の召喚獣は今もちゃんと武器を持っているぞ」

明久「多分だけどさ、武器を碎いた破片をファイールド中にばらまいてたんじゃないかな？」

秀吉「たしかに和哉の召喚獣の武器が呼び出したときより短くなっている気がするのう」

「なるほどな。たしかにそれなら考えられるが・・・自分もひともつてどうなんだ・・・？」

和哉「勝ちましたよ」

明久たちと話していると、和哉がFクラス陣営まで戻ってきていた。

「あ、ああ。よくやつた」

秀吉「しかし何故わざわざ姉上の得意教科で勝負したのじゃ？」

島田「たしかにね」

和哉「いえ、木下さんの得意教科で勝負したといつより僕の得意教科で勝負したかったからですよ」

島田「どういうこと?」

和哉「えーとですね。・・・姫路さん、姫路さんが一番努力して教科つて何ですか?」

姫路「え?えと数学です」

和哉「葵は?」

葵「英語かな」

和哉「これでわかりましたか?」

(つまり真面目に勉強してる奴に一番努力してる教科は何かって聞けば、9割方積み上げ教科の英語か数学を選択するというのを逆手にとったわけか。どうやら川崎と水無月も理解したみたいだな)

島田「わかるわけないでしょ!」

秀吉「そうじゃの。今は姫路と葵は関係ないのじゃ

「俺が代わりに説明しよう」

和哉「お願ひします。僕はちょっとトイレにいってきますので」和哉はそう言つて、高橋先生の許可をとつた後、Aクラスの教室から出て行つた。

島田「で、どういうことなの?」

「つまりだ。真面目に勉強してる奴に一番努力してる教科は何かって聞けば、9割方積み上げ教科の英語か数学を選ぶというのを逆手にとつて挑発しただけだ。それに今回の教科選択は元々向こうにあつたんだ」

葵「まあ、その2教科じゃあどちらがきても和くんは400点越えだからね」

「つまりは和哉は木下姉を挑発して木下姉の得意教科ではなく努力している教科で勝負したんだ」

秀吉「で、姉上は和哉の挑発にまんまと乗つたいうことじゃな?」

「そういうことになるな」

秀吉「こんなことを聞いたらまた姉上が怒るんじゃないな・・・」

葵「それ以前に秀吉くんは怒られるの確定だからね」

秀吉「（ボソッ）やはりワシの命も今までかのう・・・」

と秀吉は遠くを見つめながら呟つた。

（どうしたんだ？秀吉が黄面するなんて・・・）

雄 side out

優璃 side

優子「すいません・・・負けてしまいました・・・」

優子さんは負けたことを気にしているのか、俯きながら重い足取りでAクラス陣営に戻ってきた。

優璃「いえ、気にしないでください（やつぱり和くんに負けたことが応えてるみたいですね）」

蓮「木下さん、落ち込むことないよ」

蓮くんはAクラス陣営に戻ってきてからずっと俯きっぱなしの優子さんを励ましていた。

優子「でも、あれだけ大口叩いたのに挑発に乗せられてこんな無様に・・・」

優子さんはよつほど悔しかったのかそれとも不甲斐なさからなのか今にも泣きだうになっていた。

蓮「・・・」

ギュウツ！

優子「・・・え！？／／／

蓮「よしよし、いい子だから泣かないで（ナデナデ）」

蓮くんは優子さんを抱きしめたまま、頭を撫で始めた。

（えーと、どうして優子さんを抱きしめているんでしょうか？）

優子「・・・／／／（ブシュー・・・）」

宗一郎「流石は天然たらしだな」

薰「で、優子は処理落ちしかけてるし」

「どうしたらこんな状況になるんでしょうか?」

翔子「・・・私も雄一にあんなことしたい」

薰「あはは、そこはしたいじゃなくてされたいっていってどうぞ」

宗一郎「そこは好みだろ」

愛子「あのさ、こんなことしてたら・・・」

F「あの男を殺せ――――――！」

F「殺しつくせ――――――！」

案の定、Fクラスの2人が蓮くんに襲い掛かろうとしたけど、

バキッ！バゴツ！ドサツ！ドサツ！

Fクラスの2人は蓮にそれぞれ顔と脇腹を殴られ、Fクラスの2人は一瞬にして、地面に突つ伏した。

蓮「まったく、邪魔しないでほしいですね（ナデナデ）」

と、蓮くんは地面に突つ伏して氣絶している2人に言つた後、再び優子さんの頭を撫で始めた。

優子「／＼（ボンッ！）」

薰「あ、処理落ちしたね」

A女×10「いいなあ・・・私も頭撫でてもらいたい・・・」

愛子「あははは・・・」

Fクラス・2対3・Aクラス（1分け）。

## 第24話&1t・小学生の策略&opt・(後書き)

引き続きアンケートを行つておりますので、ご協力お願いします。

第16話の後書きに詳細は書いてあります。

ご意見、ご感想、誤字脱字等ありましたら、感想にかけてくださいると助かります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1068z/>

---

バカと天才？たちと召喚獣

2011年12月28日09時46分発行